

しきしま♥ときめきプラン 2020

令和2年3月



令和1年度わくわく事業
しきしま♥ときめきプラン2020
策定／令和2年3月
発行／豊田市敷島自治区
編集／しきしまときめきプラン策定委員会



敷島自治区

も く じ

はじめに	01
1 ときめきプランってなに	02
2 2015プランの評価	03
3 しきしまはどんなところ	04
4 しきしまの自慢と困りごと	07
5 しきしまの将来像	08
6 プランの全体像と主な取組み	10
7 分野別計画	11
1 定住促進	11
2 環境保全	12
3 福祉健康	13
4 次世代育成	14
5 安全安心	15
8 重点プロジェクト	16
9 プランの推進に向けて	19
【資料編】	20
■ ときめきプラン策定経緯	21
■ ときめきプラン策定委員会規約	22
■ 敷島自治区基礎データ	23
■ 私と家族の将来像アンケート	25
■ 公開討論会講演および発言要旨・意見	30
■ 新聞記事スクラップ	38
■ 計画概要版	00



はじめに

豊かな自然と山里の美しい景観、温かい人のきずなは、私たちしきしまに暮らす住民の宝であり、ここをふるさととする人々の心の支えとなっています。これらは、たまたまそこにあるものではなく、私たちの親や先輩が時代を越えて引き継いできたものです。今を生きる私たちには、このしきしまの宝を、子や孫に、そして、後世に引き継いでいく責任があります。

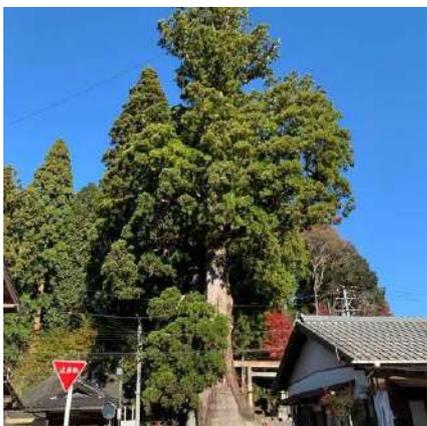
委員会が行った「私と家族の将来像」調査は、10年後、7つの町内会が限界集落、半分以上の農地が耕作放棄化の恐れという、消滅に向かう容赦のない地域の姿を浮き彫りにしました。

「しきしま ときめきプラン2020」では、引き続き定住促進に努めつつ、人口減少、高齢化を正面から受け止め、「支え合い社会創造プロジェクト」を始めとする3つの重点プロジェクトを不退転の決意で取組み、しきしまを豊かな暮らしの場として未来に引き継ぐことを計画しました。

2020年代は、地球規模で人類の選択が問われる10年と言われます。しきしまにとっても正念場となるこの10年の活動のみちしるべ、それが「しきしま ときめきプラン2020」です。お年寄りからこどもまで、すべての住民それぞれができることを、みんなで楽しみながら、そして、幸せな地域の未来にときめきを感じながら取組みましょう。

令和2年3月

しきしまときめきプラン策定委員会



自治区長	後藤 哲義	
自治区顧問	鈴木 正晴	
策定委員長	鈴木 辰吉	
副策定委員長	林 行宏	
庶務	杓名 雄司	
会計	西田又紀二	
委員	後藤 善弘	板倉小夜子
	中垣 幸久	後藤 芳文
	安藤 恒仁	堀田 巖
	渡邊さとみ	鈴木 啓佑
	松井 幸子	成木由紀子
	長澤 壮平	

1 ときめきプランってなに

プラン策定の背景と目的

めざす地域の将来像をみんなが共有し、効果的にまちづくりを進めるためのプラン（計画）を策定します

- ① 人口減少、高齢化が進んで地域の活力が低下しつつあり、集落の維持や暮らしへの影響が心配されます。
- ② その一方で、田舎暮らしに価値を見出し、U I ターンする子育て世代が多く、明るい兆しが見え始めました
- ③ 自治区活動をはじめ、どのような未来に向かうのか、私たち進むべき方向、みちしるべが必要です。
- ④ 「しきしまときめきプラン2015」（平成27年度）の計画期間が終了するため見直しが必要です。

プランの構成

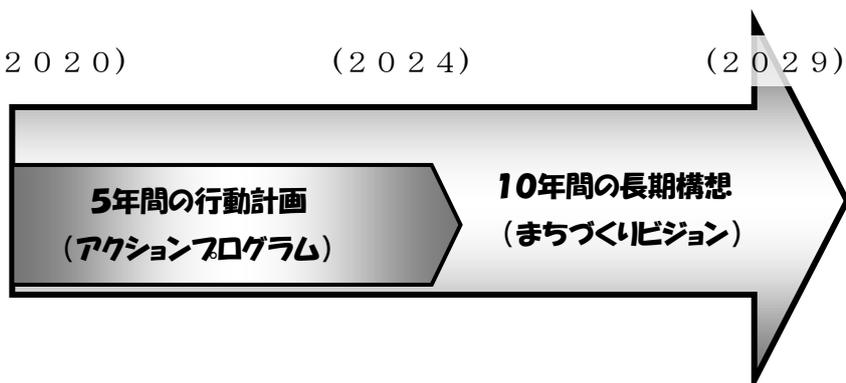
長期構想 「まちづくりビジョン」として、10年後の地域の姿、目標を定めます。（目標令和11年）

基本方針 3つの基本方針に沿って、10か条の「暮らしの作法」を定め、日々の暮らしで実践します。

行動計画 5年間で取組む5分野の事業と目標を「アクションプログラム」として定めます。（目標令和6年）

重点計画 新たなステップに挑戦する3つの「重点プロジェクト」に、関連する分野が連携して取組みます。

令和2年 (2020)	令和6年 (2024)	令和11年 (2029)
----------------	----------------	-----------------



2 2015プランの評価

目標と到達点

2015プランを策定し5年、しきしまの人口は986人で目標をわずかながら下回っています

目標指標	策定時(H26)	目標(R1)	到達点(R1)
自治区人口	1,063人	1,000人	986人
UIターン世帯	—	10世帯	23世帯
特産品出荷者	37戸	100戸	47戸
農地等共同管理	—	2町内会	2町内会
おいでん家	—	3戸	0戸
スポーツ交流	—	1回/年	0回/年
つどいの場づくり	—	暫定整備	未整備
避難誘導マニュアル	—	5町内会	9町内会

※到達点の自治区人口は、令和1年10月1日現在の住民基本台帳人口

活動の評価

定住対策等大きな成果がある一方、未着手事業があります

- ① 「暮らしの作法」の配布や空き家活用によるUIターン者は、5年間で23世帯(56人)と計画を大きく上回りました。
- ② 農産物等の新たな出荷グループや集落営農の法人化など先進的な取組みが生まれています。
- ③ 分野横断的な重点プロジェクトや難易度の高い事業に取り組めておらず、目標設定や推進体制に課題を残しました。

今後の課題

当初計画から10年が経過し、社会や移住者の増加など地域の変化を踏まえ、新たなステップに踏み出す必要があります

- ① 未着手事業の原因分析等を踏まえ、事業分野の見直しを含め、効果的で実現可能な計画に見直す必要があります。
- ② 計画推進の担い手となる人材の発掘、育成、具体的な重点プロジェクトの推進体制づくりが必要です。
- ③ 未来を展望した新たなステップの計画づくりが必要です。

3 しきしまはどんなところ

しきしまの地勢

豊田市の山村部にある旧旭町5自治区の一つがしきしまです

- ① 愛知県の中央北部、愛知高原国定公園の西端にあり、標高180m～530mの中山間地域です。
- ② 年間平均気温は12℃で、市内都市部より4℃程低いものの、近年の夏の猛暑には油断できません。
- ③ 区域面積 21.7 k m²の8割は森林で、6本の清流が1級河川矢作川に注いでいます。
- ④ 12か所の縄文遺跡や杉本町の貞観杉、押井町の磨崖仏などの文化財のほか、良質の硫黄泉の湧出も見られます。
- ⑤ 豊田市都心までは30km、都市部に通勤する人も多く、旭地区の中では、道路の利便が高い地区です。

現状と将来の姿 （「私と家族の将来像」調査結果）

10年後の各世帯の家族構成、家、農地、山林の管理などについて尋ねたアンケートから、現状のまま推移した場合、極めて厳しいしきしまの姿が浮かび上がりました。

今のまま推移した10年後のしきしまの姿

集落	現状（令和1年）		将来（令和11年）	
	人口（人）	高齢化率（%）	人口（人）	高齢化率（%）
明賀町	32	56	22	Ⓧ 71
太田町	110	50	69	Ⓧ 54
大坪町	131	44	99	Ⓧ 65
押井町	84	40	62	Ⓧ 55
加塩町	87	54	75	Ⓧ 65
小田町	17	59	15	Ⓧ 57
杉本町	256	31	214	41
榊野町（含万根）	184	41	145	53
東萩平町	85	49	71	Ⓧ 55
自治区計	986	42	772	53

※現状／令和1年10月1日住民基本台帳、将来／現状×調査結果の人口減率
 ※限界集落／Ⓧマーク、人口100人未満、高齢化率50%以上（65歳以上）の集落で、お役や祭りなどの地域行事が困難になり、いずれ消滅に向かうとされる集落

人口は800人を下回り、大半の集落が「限界集落」になる恐れ

豊田市に合併して15年、人口は21.4%減少しましたが、今後10年でさらに21.8%の減少が見込まれ、800人を下回る見込みです。また、高齢化率も53%まで上昇し、9集落のうち7集落が「限界集落」（表㊸マーク）のレベルに達します。

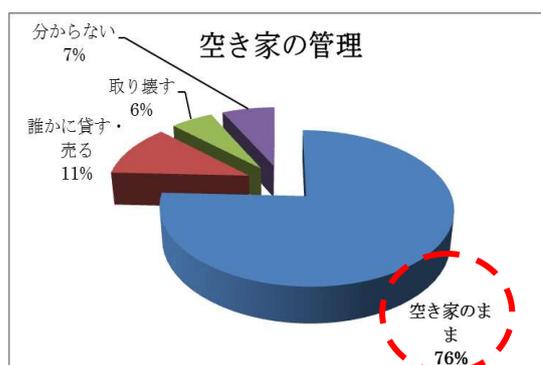
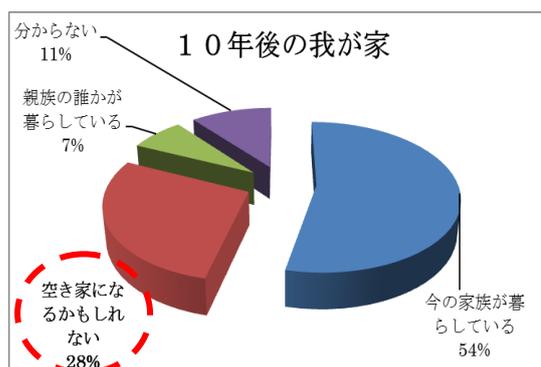
「5戸に1戸が空き家」の風景は、まさに消滅していく地域の姿

世帯が消滅し「空き家になるかもしれない」と28%が答ええています。前回調査より5ポイントも増加しており、高齢世帯の増加が要因と考えられます。

空き家の活用について、「貸す・売る」と答えた世帯は11%、「空き家のまま」が76%にもなります。

5戸に1戸が空き家となって朽ち果てていく姿はまさに消滅していく地域の姿です。

市の空き家情報バンクに登録し、空き家情報を待っている250世帯(30~40代の子育て世代が過半を占める)に提供できれば、全く違った、バラ色の地域の未来が描けます。



10年後管理されない農地55%、山林58%になる恐れがある



耕作放棄地も一気に増加の恐れ

農地と山林の所有者に、管理状況を尋ねた結果は、農地については、「既に放棄」12%、「管理できなくなる農地が増加」43%、合わせて55%が管理できなくなる恐れがあります。これは、前回調査より13ポイントも増加してお

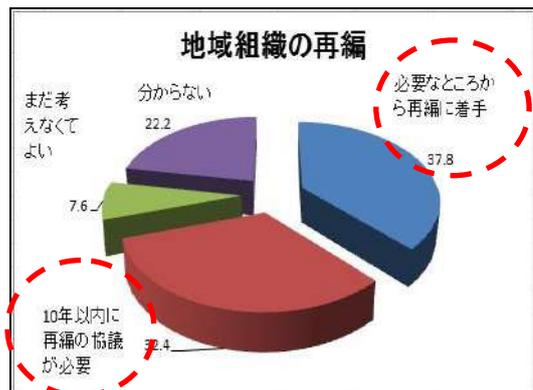
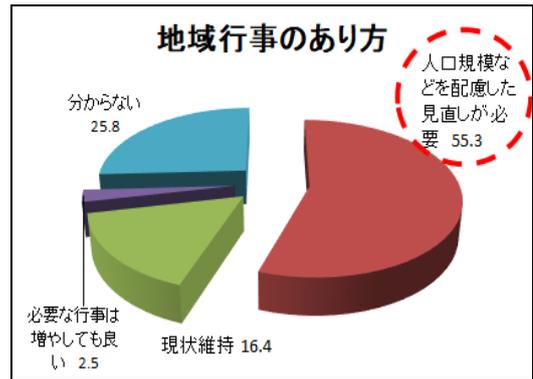
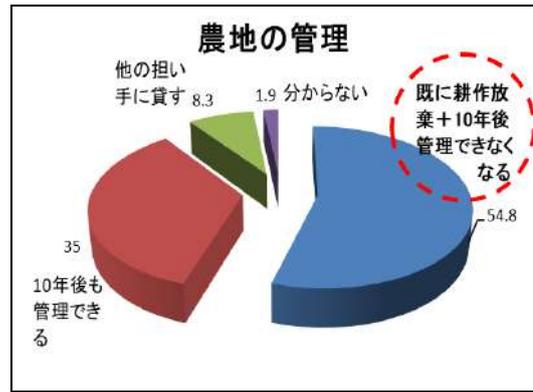
り、管理する仕組みができなければ、地域は荒野と化すことでしょう。また、山林についても、58%が管理できなくなる恐れがあり、森林が持つ公益的機能や美しい農村景観が大きく損なわれる可能性があります。

人口規模などを配慮した地域行事や組織の見直しが必要

初めて調査した、地域行事のあり方については、「人口規模などを配慮した見直しが必要」と55%の世帯が答えており、役職の兼務などが負担感を増していることが考えられます。また、町内会、農事組合など地域組織再編については、「必要なところから再編に着手」「10年以内に再編の協議が必要」を合わせると約70%の世帯が再編の必要性を感じていることが明らかになりました。

今後の地域運営のあり方については、「守るべきものと変化すべきものを取捨選択する」が32%を占め最も多く、次いで、「多様な価値観を認めつつも、山村固有のルールは守ってもらう」が23%となっています。

人口に占める移住者の比率が増す中、山村地域に欠くことのできないコミュニティ維持のための祭りやしきたりといった独自のルールをどこまで残し、刷新するのか緊急な検討が迫られています。



活動の拠点「敷島会館」

4 しきしまの自慢と困りごと

しきしまの自慢 (財産)

- ① 豊かな自然環境と山里の美しい景観
- ② 温かい人間関係と地域の連帯感
- ③ 老人憩いの家や泉質の良い温泉の里
- ④ しきしまのシンボル貞観杉（国指定天然記念物）
- ⑤ 「縁結び岩」のあるお須原山（国定公園）
- ⑥ 棒の手を始め有形、無形の文化財
- ⑦ 加塩町の庚申堂、押井町の普賢院はじめ由緒ある多数の寺社
- ⑧ フジバカマが咲くアサギマダラ（蝶）の飛来地
- ⑨ 「メグ友会」「旭元気野菜の会」などの農産物出荷組織
- ⑩ こどもたちの明るく元気なあいさつ
- ⑪ こども園、小学校、旭地区唯一の中学校
- ⑫ 製造業、サービス業、建設業など多くの雇用の場
- ⑬ 意欲的な専業農家、チャレンジする集落営農組織
- ⑭ 空き家活用を中心とする定住対策の先進地
- ⑮ 志が熱い消防団員の存在
- ⑯ 小川の水質が改善されつつある



お須原山の縁結び岩

しきしまの困り ごと（課題）

- ① 過疎化・高齢化の進行が著しい
- ② ひとり暮らし世帯の増加
- ③ 医療機関が遠い
- ④ 買い物が不便
- ⑤ 公共交通の活用が不十分
- ⑥ 未改良の道路が多い
- ⑦ 農地、山林の荒廃の恐れ
- ⑧ 若者が定着する職場が少ない
- ⑨ 鳥獣害被害の拡大
- ⑩ 昼間人口が少ないことによる犯罪や災害時の不安
- ⑪ 会議や活動の顔ぶれがいつも同じで負担感が増大
- ⑫ 子どもたちが安心して遊べる場所が少ない



過疎化で増加する空き家

5 しきしまの将来像

まちづくり
ビジョン

ときめきプランでめざす将来像

- ① 空き家、農地、山林が有効に活用され、多くのUIターン者とともに豊かで持続可能な暮らしが営まれています。
- ② 都市部の企業や市民にも支えられ、手入れされた田畑や山林、清流が日本の田舎を代表する風景になっています。
- ③ お年寄りも地域の担い手として元気で働き、子供たちが自然の中で生き生きと学び、遊んでいます。
- ④ 歴史や文化財、伝統的な行事が受け継がれ、祭りが盛大に行われています。
- ⑤ 支え合いを大切に、多少は不便でも安全で安心して暮らせる社会基盤や仕組みの整った地域になっています。

10年後のしきしまの姿

豊かな自然、温かい地域のきずなを守り
人々が生き生きと暮らす山里 しきしま

活動の基本方針

「しきしま暮らしの作法」を守り

基本方針1 過疎化ストップにチャレンジ

基本方針2 しきしまの宝を守る

基本方針3 安心して暮らせる地域をつくる

活動の目標値

目標指標	現在	5年後	10年後
自治区人口	986人	900人	850人
UIターン世帯	—	10戸	20戸
農地等共同管理体制	2町内会	5町内会	9町内会
たすけあいPJ連携	—	連携試行	本格連携
子どもパラダイス	—	暫定整備	完成整備
避難誘導マニュアル	暫定整備	拡充・訓練	拡充・訓練
組織・催事改革	—	方針決定	改革実行

しきしま暮らしの作法

私たちは、しきしまを豊かな暮らしの場として未来に
つなぐことを決意し、しきしまを愛する全ての人々を
温かく迎え入れます。ここに暮らしの作法十か条を定
め、これを守ります。

第一条 家、田畑、山林は地域共有の風景と考えよう。

第二条 家の周りをきれいにし暮らそう。

第三条 空き家を放置するのはやめよう。

第四条 田畑や山林を荒らさず、生業の種を育てよう。

第五条 高齢者が生涯現役で暮らせるよう支えあおう。

第六条 子どもは地域の宝、よその子も大切に育てよう。

第七条 歴史や伝統文化を地域の誇りとして守ろう。

第八条 あいさつを励行し、安全安心な地域をつくろう。

第九条 自分でできないことは、みんなを助け合おう。

第十条 地域の未来のために何ができるか考え行動しよう。

令和二年三月

数島自治区

「しきしま暮らしの作法」各条文に込められた思い

- 前文 しきしまを暮らしの場として守るため、UIターン者の受け入れなど地域を開放する決意を地域住民皆で共有します。
- 第一条 家、田畑、山林は、個人の財産であっても、それらが織り成す農村風景は未来に引き継ぐ地域の共有財産と考えましょう。(環境保全)
- 第二条 家周りの高木や竹やぶは家の劣化を早めます。快適な暮らし、地域資源としての家を次代に引き継ぎましょう。(定住促進)
- 第三条 万が一空き家になりそうな場合は、定住推進員に相談し有効活用しましょう。それが地域を救うこととなります。(定住促進)
- 第四条 田畑や山林は農村環境の要素であると同時に価値を生み出す経営資源でもあります。他に貸すなど有効利用しましょう。(環境保全)
- 第五条 健康で長生きし、生涯現役で地域の担い手として活躍しましょう。弱った時は世代を超えて支え合しましょう。(福祉健康)
- 第六条 子どもたちは未来を担う地域の宝です。よその子もうちの子も分け隔てなく褒めて叱って育てましょう。(次世代育成)
- 第七条 歴史や伝統文化は地域の誇りであり心の支えです。次の世代に引き継ぐまでは私たちの仕事、皆んなで工夫して传承しましょう。
- 第八条 あいさつができる子どもたちは地域の自慢です。そして、あいさつが結ぶ地域の絆で防災、防犯を進めましょう。(安全安心)
- 第九条 農村社会は支え合いの先進地です。無理をせず、できないことは地域内外の人々と支え合しましょう。
- 第十条 人は社会を豊かにするために生きています。地域の未来のために自分に何ができるか考え、そして、行動しましょう。

6 プランの全体像と主な取組み

豊かな自然 温かい地域のきずなを守り 人々が生き生き暮らす山里 しきしま	基本方針	分野	主な取組み
	I 過疎化ス トツブに チャレン ジ	 1 定住促進 	① 都市農山村交流事業 継続 ② 地域人材等ウェルカム事業 新規 ③ 住まいの情報バンク事業 継続
	II しきしま の宝を 守る	 2 環境保全 	① 農地保全管理推進事業 拡充 ② 景観整備保全事業 継続 ③ 水環境保全事業 継続
		 3 福祉健康 	① しゃべらまい会開催事業 継続 ② 健康づくり推進事業 継続 ③ たすけあいプロジェクト 推進事業 新規
		 4 次世代育成 	① すこやか教室事業 継続 ② つどいの場事業 継続 ③ こどもパラダイス事業 新規
	III 安心して 暮らせる 地域をつ くる	 5 安全安心 	① 災害に強いまち事業 拡充 ② 犯罪のないまち事業 継続 ③ 交通事故のないまち事業 継続
分野横断 重点 プロジェクト	1 支え合い社会創造プロジェクト 子どもから高齢者までが支え合う定住魅力の創造 2 自給家族による農地保全プロジェクト 持続的な農の営みを実現する集落営農の体制整備 3 未来への構造改革プロジェクト 社会変化に対応した組織、催事、暮らしの改革		

7 分野別計画

<h1>1 定住促進</h1>		都市住民との交流を通して敷島ファンを増やし、地域活動への参加や農産物の直接販売につなげるほか、空き家や遊休地の活用により定住へと結びつけ、地域活力の維持、過疎の抑止を図る。						
		テーマ	分野の目標	項目	現状	5年後	10年後	
交流から定住へ 空き家活用を広げよう		分野の目標	交流人口	5,000人	5,500人	6,000人		
			有用人材等誘致	—	2件	5件		
			空き家登録	—	15戸	30戸		
			UIターン世帯	—	10戸	20戸		
施策項目	方針		主な予定事業					
(1) 都市との交流	団体等が行う都市との交流事業を支援すると共に、交流人口から関係人口、定住へと誘う。		①都市農山村交流支援事業					
(2) 定住の推進	町内会に定住推進員を置き、空き家登録の推進、UIターン者の増加を図る。また、地域に有用な人材等の誘致を図る。		①地域人材等ウェルカム事業 ②住まいの情報バンク事業					
5 か 年 ア ク シ ヨ ン プ ラ ン	事業名	2020	2021	2022	2023	2024	主体	活用制度
	(1)-① 都市農山村交流支援事業(※)	連携・支援					自治区 町内会	交流居住センター さんそんセンター
	(2)-① 地域人材等ウェルカム事業(※)	調査・試行		実施			自治区 町内会	わくわく事業 さんそんセンター
	(2)-② 住まいの情報バンク事業(※)	空き家発掘登録・定住促進					自治区 町内会	空き家バンク さんそんセンター
	重点-① 支え合い社会創造プロジェクト	参画					福祉健康、次世代育成、安全安心分野と連携し、定住促進を図る	

※「都市農山村交流支援事業」は、各団体の取り組みを掌握し、団体間の連携やPRなどをサポートしつつ、交流人口の拡大、定住への誘導を図るもの。

※「地域人材等ウェルカム事業」は、UIターン者の数だけではなく、高齢者を含め、地域の魅力づくりや運営に必要な人材や企業、団体などを、空き家や遊休地の活用し、ターゲットを絞って誘致、地域活性化につなげるもの。

※「住まいの情報バンク事業」は、空き家の発掘と登録、「暮らしの参観日」や「空き家片付け大作戦」などを通じ定住促進を図るもの。また、「私とお家の明るいミライ宣言」を活用し、今後、空き家になることが見込まれる物件所有者への働きかけを行うほか、UIターン者の定着に向けた入居後の支援にも取り組む。

2 環境 保全		豊かな自然環境や美しい景観は地域の自慢であり、人に安らぎと癒しをもたらす、かけがえのない財産である。この財産を守るための共同管理体制の構築を目指すと共に、都市部企業など担い手を地域外にも広く求めながら、適正な維持・保全を図る。						
テーマ		分野の 目標	項目	現状	5年後	10年後		
豊かな自然環境と			農地等共同管理体制	2町内会	5町内会	9町内会		
美しい景観の整備保全			景観整備保全	—	維持向上	維持向上		
			水質(COD)	—	維持向上	維持向上		
施策項目		方針			主な予定事業			
(1) 農地の保全管理		農地の共同管理体制の推進を図ると共に耕作放棄地対策、鳥獣害対策を推進する。			① 農地保全管理推進事業			
(2) 景観の整備保全		敷島会館環境整備、町内会の環境・景観整備の支援、森づくり会議や木の駅プロジェクトを推進する。			① 景観整備保全事業			
(3) 水環境の保全		エコな暮らしの啓発を図りつつ、定期的な水質調査などにより水質の保全を図る。			① 水環境保全事業			
5 か 年 ア ク シ ョ ン プ ラ ン	事業名	2020	2021	2022	2023	2024	主体	活用制度
	(1)-① 農地保全管理推進事業(※)	事業推進					自治区 農事組合	行政支援制度
	(2)-① 景観整備保全事業(※)	事業推進					自治区 町内会	行政支援制度
	(3)-① 水環境保全事業(※)	事業推進					自治区 町内会	行政支援制度
	重点-② 自給家族による 農地保全プロジェクト	参画					プロジェクトに参画し、 農地保全管理を推進する。	

※農地保全管理推進事業は、重点プロジェクトとして推進する共同管理体制づくり(集落営農の推進)と連携し、農事組合が取組む耕作放棄地対策、鳥獣害対策を支援する。

※景観整備保全事業は、敷島会館の環境整備を行うとともに、町内会が取組む環境美化、花木植栽等による景観整備、森づくり会議、木の駅プロジェクトを支援する。

※水環境保全事業は、河川の水質調査を定期的に行い、改善されつつある水質の維持向上に努めるほか、合併浄化槽の普及啓発や、良好な水辺環境保全にかかる啓発に努める。

3 福祉 健康		高齢社会の進展を踏まえ、みんなが住み慣れた地域で生き生きと暮らせるよう向こう三軒両隣、世代を越えて支え合う地域社会づくりをめざす。また、住民が生涯現役で地域社会の担い手として活躍できるよう健康づくりに向けた取り組みを推進する。						
テーマ		分野の目標	項目	現状	5年後	10年後		
みんなが生き生きと暮らせる地域づくり			しゃべらまい会	1回/年	1回/年	1回/年		
			健康づくり	夏祭り	夏祭り	夏祭り		
			たすけあいプロジェクト連携	—	連携試行	本格的連携		
施策項目	方針			主な予定事業				
(1) いきがづくり	一人暮らし、日中一人暮らしの高齢者が楽しく暮らせる地域づくりを推進する。			① しゃべらまい会開催事業				
(2) 健康づくり	みんながいつまでも元気で暮らせる地域づくりを推進する。			① 健康づくり推進事業				
(3) 支え合いの仕組みづくり	小数社会においても、みんなが幸せに暮らせる仕組みづくりを推進する、			① たすけあいPJ推進事業				
5 か 年 ア ク シ ョ ン プ ラ ン	事業名	2020	2021	2022	2023	2024	主体	活用制度
	(1)-① しゃべらまい会 開催事業(※)	事業継続					自治区	社協・包括支援センター
	(2)-① 健康づくり推進 事業(※)	事業継続					自治区	地域保健課 ヘルサポ リーダー
	(3)-① たすけあいPJ推 進事業(※)	連携試行					自治区	マイパワー
	重点-① 支え合い社会創造 プロジェクト	参画					定住促進、次世代育成、 安全安心分野と連携し、 福祉健康を推進する。	

※しゃべらまい会は、一人暮らし、日中一人暮らしの高齢者などを対象に、おしゃべりや食事、健康づくりの場を設ける。必要に応じて社協・包括、定住促進部の協力を得る。

※健康づくり推進事業は、自治区夏祭りの機会を捉え、みんなが健康づくりの習慣化を身に付けるためのイベントを開催する。必要に応じて地域保健課、ヘルサポの協力を得る。

※たすけあいプロジェクト推進事業は、重点プロジェクトとして推進する支え合いの仕組みづくりと連携し、支える人、支えられる人の登録拡大などに協力する。

4次世代育成

地域の宝であるこどもたちを、地域が一丸となり守り育てる。このため、こどもたちが自然の中で伸びのびと遊べる「居場所」を整備し、世代を越えた見守りの仕組みをつくる。また、子育てのしやすさを地域の魅力として、定住促進にも貢献する。

テーマ	分野の目標	項目	現状	5年後	10年後			
次世代を担うこどもたちを地域で守り育てる		すこやか教室	1回/年	2回/年	2回/年			
		集いの場	夏祭り	夏祭り	夏祭り			
		こどもパラダイス	—	暫定整備	完成整備			
施策項目	方針	主な予定事業						
(1) 子育て支援	地域の宝であるこどもたちを地域で守り育てるとともに親同士がつながり一丸となって子育て環境の向上を図る。	①すこやか教室事業 ②集いの場事業						
(2) 子どもの居場所づくり	幼児から中学生までが安全に学び遊べる場と多世代が交流しながら見守る仕組みを作る。	①こどもパラダイス事業						
5 か 年 ア ク シ ョ ン プ ラ ン	事業名	2020	2021	2022	2023	2024	主体	活用制度
	(1)-① すこやか教室事業(※)	事業継続					自治区	
	(1)-② 集いの場事業(※)	事業継続					自治区	
	(2)-① こどもパラダイス事業(※)	計画	暫定整備				自治区	行政支援制度 わくわく事業
	重点-① 支え合い社会創造プロジェクト	参画					定住促進、福祉健康、安全安心分野と連携し、子育て環境の充実を図る。	

※すこやか教室事業は、親子で交流し、中学生も視野に、健やかなこどもたちの育成を図る。
 ※集いの場事業は、自治区夏祭りの場を活用し、中学生の親子の参加も視野に集いの場を運営する。

※こどもパラダイス事業は、敷島会館および周辺土地も活用し、幼児から中学生が学び遊べる場を整備するもの。こどもたちの見守り、施設運営の仕組みづくりについては、重点プロジェクトの支え合い社会創造プロジェクトと連携し、多世代が交流し、持続可能な仕組みづくりを行う。必要に応じ会館の環境整備を担う環境保全部の協力を得る。

5 安全 安心		安全で安心な暮らしは、すべての住民の望みである。様々なリスクが身近に潜んでいることを自覚し、安全安心は創り出すものであるとの認識の下、自らできることは自ら行い、足りない部分は互いに助け合って行い、「安全安心のまち」を実現する。							
テーマ		分野 の 目 標	項目		現状	5年後	10年後		
住民自らの行動で 安全安心なまちづくり			避難誘導マニュアル		暫定整備	拡充・訓練	拡充・訓練		
			防犯講演会		1回/年	2回/年	2回/年		
			交通安全立哨		12回/年	充実強化	充実強化		
施策項目		方針			主な予定事業				
(1) 災害に強いまち		自分事として、防災・減災の仕組みを受け入れ、有事に機能する体制をつくる。			①災害に強いまち事業				
(2) 犯罪のないまち		機器の抑止・牽制力とマンパワーを効果的に組み合わせることで犯罪の発生を防ぐ。			①犯罪のないまち事業				
(3) 交通事故のないまち		住民が加害者とならない交通ルール遵守徹底と地域ぐるみでの啓発活動強化。			①交通事故のないまち事業				
5 か 年 ア ク シ ヨ ン プ ラ ン	事業名		2020	2021	2022	2023	2024	主体	活用制度
	(1)-① 災害に強いまち 事業(※)		事業推進					自治区 町内会	行政支援制度
	(2)-① 犯罪のないまち 事業(※)		事業推進					自治区 町内会	行政支援制度
	(3)-① 交通事故のない まち事業(※)		事業推進					自治区 町内会	行政支援制度
	重点-① 支え合い社会創 造プロジェクト		参画					定住促進、福祉健康、次世代育成分野と連携し安全安心な地域にする。	

※災害に強いまち事業は、全町内会に災害時要支援者避難誘導マニュアルが暫定整備されており、災害時に有効に機能するよう体制の拡充、訓練を行うもの。体制整備にあたっては、重点プロジェクトの支え合い社会創造プロジェクトとの連携を図るものとする。

※犯罪のないまち事業は、あいさつの励行、機会を捉えた防犯講習会の開催などにより、防犯意識の向上、機器による犯罪の抑止など地域ぐるみの防犯体制の整備を図るもの。

※交通事故のないまち事業は、住民が加害者にならない取組みに注力し、立哨や青パト巡回、重点プロジェクトの進捗を踏まえた高齢者の運転免許証返納の話題化などを推進するもの。

プロジェクト 自給家族による農地保全プロジェクト

■背景

耕作放棄農地の拡大は、美しい農村景観を損ない、定住促進の足かせになるだけでなく、集落消滅の引き金となる。生産者と消費者がつながる「自給家族」方式の横展開で敷島エリアの農地保全は可能である。

■概要

「環境保全」の重点事業を、農事組合長と連携して推進する。集落営農組織を再編し、「自給家族」方式を導入。専業農家、JA、企業、特産品出荷者、Iターナーの連携で敷島エリアの全農地を保全する。

■具体的事業イメージ

①自給家族による農地保全事業

集落営農組織化を進め、「地域まるっと中間管理方式」により農地の集約を図り「自給家族」参加者を募る。しきしまで3つ程度の「自給家族」グループをつくり、Iターンを含む専業農家などと連携し、60haの全農地を保全する。

②福祉健康と連携した特産品出荷事業

「メグ友会」「旭元気野菜の会」「モビリティビレッジ」「株ワイズ」などが連携し、都市部消費者への安定的な流通システムを構築し、元気な高齢者がいつまでも農の営みが続けられるよう支援する。

③水源の森モデル事業

安定的な水利確保と健全な森づくりに向けて、研究者や森林ボランティアの協力を得てモデルとなる美しい里地里山を整備する。

5年後の目標

全集落の集落営農組織化に目途。自給家族が農地保全モデルになっている。

- ・集落営農組織 5集落
- ・自給家族方式 2団体
- ・特産品出荷者 50人
- ・新たな流通システム 試行
- ・里地里山モデル林 着手



「農の営みを諦めた時、
集落は消滅に向かう。」

モデルとする押井営農組合の「自給家族」システム

プロジェクト3 未来への構造改革プロジェクト

■背景

人口減少、小数社会化は、避けて通れず、人口規模に合った地域行事や組織、集落の再編が必要となる。また、移住者の増加により多様な価値観を認め合う「農村型多文化共生社会」のあり方についても研究が必要である。

■概要

自治区役員を中心に、有識者、研究者などの助言も得ながら、新たな時代の地域経営について方向性を示す。改革は先送りせず、できることから試行、実践し、先進モデルづくりを目指す。

■具体的テーマのイメージ

①地域行事、会議、のあり方

自治区行事を中心に行事、会議の現状を精査し、廃止、統合、拡充などの評価を行うほか時代を踏まえて新たに必要なものについても検討。1件／年度程度の見直しに着手する。合わせて町内会レベルのモデルも検討する。

②自治区組織、町内会、農事組合などのあり方

しきしまエリアはもとより、山村地域全体を視野に研究者など専門家を交えて研究し方向性を提言する。

③町内会再編に伴う「むらおさめ」のあり方

縮小していく社会において、免れない統合や消滅にどのように対処すべきか。神社仏閣の収め方、記録保存の手法やゆかりの人々の心の整理など「むらおさめ」のあり方について提言する。

5年後の目標

地域行事が重点化・スリム化され、地域再編の方向性が固まっている。

- ・見直し行事・会議 5事業／5年
- ・町内会等あり方 方針決定
- ・過疎地域自立活性化表彰 受賞

重点プロジェクト推進体制と予算

■推進体制

プロジェクト1 ・チームリーダー指名、定住促進、福祉健康、次世代育成、安全安心の各部より代表、地域会議委員、マイパワー

プロジェクト2 ・チームリーダー指名、環境保全部代表、各集落農事組合長、地域会議委員

プロジェクト3 ・チームリーダー指名、企画会メンバー、地域会議委員、学識者・専門機関等

■予算

- ・一定額を自治区予算で確保、寄付、助成、共同研究など知恵を絞って捻出する。

9 プランの推進に向けて

「しきしま ときめきプラン」の策定、計画の実践に基づく10年間の成果や「暮らしの作法」制定による目標の共有方法は、他の農山村地域や都市部の自治区からも注目を集めています。そして、「私と家族の将来像」調査とその結果を踏まえた重点プロジェクトは、全国から注目されるほど先進的で、その成果が期待されます。

素案に対する意見募集や公開討論会などを経て、みんなで策定した地域の総合計画である「しきしま ときめきプラン2020」を道しるべとして、自治区および町内会、活動団体やグループがいかに実践するかが重要です。「議論し決めたことを実践する気風」をしきしまの自慢の一つにしましょう。

ポイント

1

無理をせず楽しんで取り組もう

がんばり過ぎは禁物。長続きしません。しきしまらしく、身の丈にあった取り組みで、参加者が楽しみながら、少しずつ、着実に課題を解決していきましょう。

ポイント

2

都市住民や専門家に頼ろう

農村にあこがれている人が増えています。しきしま出身の人も将来を心配しています。専門家を含め、応援してくれるすべての人の力を借りることが目標達成の近道です。

ポイント

3

PDCA (計画・実行・検証・改善) を実践しよう

みんなで考えた計画ですが、時代の変化は早く、どんどん変わっています。PDCAをきちんと回し、必要な見直しは柔軟に行いましょう。



公開討論会



しきしま暮らしの参観日

しきしま ときめきプラン

資 料 編

■ときめきプラン策定経緯	21
■ときめきプラン策定委員会規約	22
■敷島自治区基礎データ	23
■「私と家族の将来像」アンケート	25
■公開討論会講演および発言要旨・意見	30
■新聞記事スクラップ	38
■計画概要版	00

資料 ときめきプラン策定経緯

ステップ	月/日 (曜日)	会議名等	概要
計画準備	4月21日 (日)	自治区総務会	策定委員選任、予算策定スケジュール
	5月9日 (木)	第1回委員会	担当分野、アンケート方針 フリーディスカッション
	6月12日 (木)	第2回委員会	アンケート内容 分野別グループ討議
	7月11日 (木)	第3回委員会	アンケート内容 分野別の方向性討議
調査分析 計画策定	7月13日 (土)	自治区総務会	進捗報告 アンケート配布・回収依頼
	7月28日 (日)	地域づくり研修	シトルカン編集部研修参加 Studio-L 西上ありさ氏講演
	8月10日 (土)	自治区総務会	アンケート回収
	9月12日 (木)	第4回委員会	アンケート分析、評価 重点課題の洗い出し
	10月10日 (木)	第5回委員会	現状と課題、将来像、基本方針、 分野別計画討議
	11月9日 (土)	自治区総務会	プラン中間報告 概要版配布・意見公募依頼
	11月14日 (水)	第6回委員会	公開討論会方針 重点プロジェクト討議
意見募集	12月7日 (土)	公開討論会	講演会・公開討論会
	12月12日 (木)	第7回委員会	討論会、公募意見反映 計画書本編討議
	12月22日 (日)	自治区企画会	プラン2015の評価 自治区組織体制検討
	1月9日 (木)	第8回委員会	計画書本編・資料編討議
計画決定	1月11日 (土)	自治区総務会	分野別計画・重点プロジェクト共有
	1月18日 (土)	自治区 新旧部員会	新年度分野別計画案策定
	3月1日 (日)	自治区総会	ときめきプラン2020承認 計画書・暮らしの作法配布

しきしまときめきプラン策定委員会規約

(設置)

第1条 敷島自治区の中長期ビジョンを策定するため、策定委員会を設置する。

(名称)

第2条 この委員会は、しきしまときめきプラン策定委員会（以下「委員会」という）。と称する。

(事業)

第3条 この委員会は、プラン策定のため次の事業を行う。

- (1) 定例委員会
- (2) アンケート、先進地視察等による調査研究
- (3) 講演会、公開討論会
- (4) 意見公募
- (5) 自治区総務会への報告
- (6) その他プラン策定に必要な事業

(委員)

第4条 委員会の委員は、20名以内とし、自治区長が指名する。

(役員)

第5条 この委員会に、委員長、副委員長、庶務、会計、アドバイザーを置く。
2 役員は委員の互選による。

(職務)

第6条 委員長は、委員会を代表し委員会を統括する。
2 副委員長は、委員長を補佐するとともに委員長に事故あるときは委員長の職務を代理する。
3 庶務は、委員会の庶務を行う。
4 会計は、委員会の会計を行う。
5 アドバイザーは、委員会を監督し、助言を行う。

(会議)

第7条 会議は、委員会および役員会とする。
2 委員会および役員会は、委員長が招集する。

(経費)

第8条 委員会の運営にかかる経費は、補助金および自治区負担金をもって充てる。

(委任)

第9条 この規約に定めのない事項は、委員会で協議し決定する。

附 則 この規約は、平成26年4月1日から施行する。

資料 敷島自治区基礎データ

■しきしまの人口推移

各年10月1日現在/人

町名	H16	H27	H28	H29	H30	R1
明賀町	53	38	39	37	34	32
太田町	146	118	117	111	111	110
大坪町	165	139	137	136	132	131
押井町	106	89	87	91	84	84
加塩町	147	107	101	97	92	87
小田町	27	20	20	18	18	17
榊野町	215	184	178	180	172	171
杉本町	272	269	253	260	263	256
東萩平町	97	81	83	82	79	85
万根町	20	12	13	13	11	13
敷島自治区	1,248	1,057	1,028	1,025	996	986
旭地区	3,551	2,869	2,810	2,758	2,681	2,634

■しきしまの遺跡

出展：旭町誌資料編

名称	所在地	時期	出土遺物
ホンゴ遺跡	明賀町ホンゴ	縄文晩期・鎌倉時代	土器、石器、山茶碗
井戸洞遺跡	明賀町井戸洞	縄文時代	磨製石斧、凹石
大水口岩陰遺跡	杉本町大水口	縄文早・晩期	土器
黒田遺跡	大坪町黒田	縄文時代	土器
榊野広見遺跡	榊野町広見	縄文時代・鎌倉時代	土器、石器
宮之前遺跡	押井町宮之前	縄文時代	石器
浅之久保遺跡	押井町浅之久保	縄文晩期・鎌倉時代	土器、灰釉陶器
鬼ヶ子遺跡	押井町鬼ヶ子	縄文晩期・鎌倉時代	土器、須恵器
坂遺跡	加塩町坂	縄文時代・鎌倉時代	土器、山茶碗
東加塩広見遺跡	加塩町広見	縄文時代	土器、打製石斧
柏木遺跡	加塩町柏木	縄文時代	磨製石斧
膳棚	加塩町膳棚	先土器時代	スクレーパー

■しきしまの指定文化財

出典：豊田市ホームページ

種別	名称	指定	時期	所在	備考
国天然記念物	杉本の貞観スギ	1944	平安	杉本町	県下最大の杉
県無形民俗	旭町の棒の手	1976	明治	大坪町	起倒流、明治18年伝承
市彫刻	木造阿弥陀如来立像	1975	江戸	太田町	一木造、像高31.5cm
市彫刻	木造聖観音菩薩立像	1975	鎌倉	杉本町	一木造、像高62.0cm
市彫刻	押井の磨崖仏	1975	江戸	押井町	俱利伽羅明王像
市無形民俗	藤牧検藤流棒の手	1986	大正	杉本町	明治中期伝承
市無形民俗	丹波大垣内流打ちはやし	1986	明治	杉本町	明治30年伝承
市無形民俗	見当流棒の手	1987	明治	押井町	明治19年伝承
市天然記念物	慈眼寺のすぎ	1984	江戸	杉本町	樹齢 推定350年
市天然記念物	磨崖仏のけやき	1984	江戸	押井町	樹齢 推定300年

■しきしまに関わる主な出来事

西暦	年号	出来事
1906	明治 39 年	能見村、介木村、築羽村が合併して旭村となる
1907	明治 40 年	旭村役場が小渡から太田に移された
1910	明治 43 年	太田・小渡・大坪尋常小学校校舎が新築された
1915	大正 4 年	足助・杉本・小渡間にバス運行が開始された
1932	昭和 7 年	太田尋常小学校が廃止となり築羽・敷島に統合された
1940	昭和 15 年	旭村役場が太田から小渡に移転された
1941	昭和 16 年	太平洋戦争が始まり、尋常小学校が国民学校となった
1945	昭和 20 年	太平洋戦争が終わった
1947	昭和 22 年	国民学校が小学校と改められ、旭中学校、三濃中学校ができた
1955	昭和 30 年	旭村が岐阜県三濃村と合併した
1959	昭和 34 年	伊勢湾台風が襲い、旭村にも大きな被害が出た
1966	昭和 41 年	矢作ダム建設が始まった。八幡・杉本へき地保育所が開設された
1967	昭和 42 年	旭村が旭町となった
1969	昭和 44 年	敷島小学校と大坪小学校が統合し、敷島小学校が開校した
1970	昭和 45 年	旭町役場（現支所）、敷島小学校が現在地に移転新築された
1971	昭和 46 年	矢作ダムが完成した
1972	昭和 47 年	老人憩いの家ができる。集中豪雨に襲われた。
1976	昭和 51 年	太田に不燃物処理場ができる
1978	昭和 53 年	土地改良区がつくられ、ほ場整備が盛んに行われるようになった
1979	昭和 54 年	上水道工事が全町で始まった
1988	昭和 63 年	敷島農村環境改善センターが完成した
1991	平成 3 年	旭町情報連絡施設（同報無線）が全戸についた
1996	平成 8 年	旭中学校と浅野中学校が統合、現在地に新校舎が開校した
2005	平成 15 年	榊野大橋（県道土岐足助線バイパス）が開通した
2007	平成 17 年	豊田市に合併し、敷島自治区が誕生した
2010	平成 22 年	しきしまときめきプラン 2010 策定
2012	平成 24 年	築羽小学校が閉校し、敷島小学校と統合した。
2013	平成 25 年	杉本町に農山村定住応援住宅「エビネの里」建設、入居始まる
2013	平成 25 年	県営農地環境整備事業（敷島地区）着工
2015	平成 27 年	しきしまときめきプラン 2015 策定
2019	平成 31 年	県営農地環境整備事業（敷島地区）竣工
2020	令和 2 年	しきしまときめきプラン 2020 策定

出典：旧旭町教育委員会小学校副読本ほか



エビネの里（平成 25 年建設）



県営農地環境整備事業（平成 31 年竣工）

■調査の概要

目的 敷島小学校区全世帯に10年後の家族の将来像を話し合っていた
方法等 いただき、家族の集合体である地域の将来像を浮き彫りにすることを目的に実施

- ①調査対象：敷島自治区全世帯（342世帯）、築羽自治区（139世帯）、万町町（13世帯）
- ②調査方法：町内会長を通じた配布・回収
- ③調査期間：令和元年7月14日から8月10日まで

回収状況

地区	配布数	有効回収数	有効回収率	地区	配布数	有効回収数	有効回収率
明賀町	13	10	76.9%	小田町	9	9	100.0%
太田町	38	38	100.0%	杉本町	77	65	84.4%
大坪町	51	43	84.3%	榑野町（万根町も含む）	65	46	70.8%
押井町	28	26	92.9%	東萩平町	28	20	71.4%
加塩町	27	19	70.4%	敷島自治区	342	275	80.4%
				敷島小学校区	494	402	81.4%

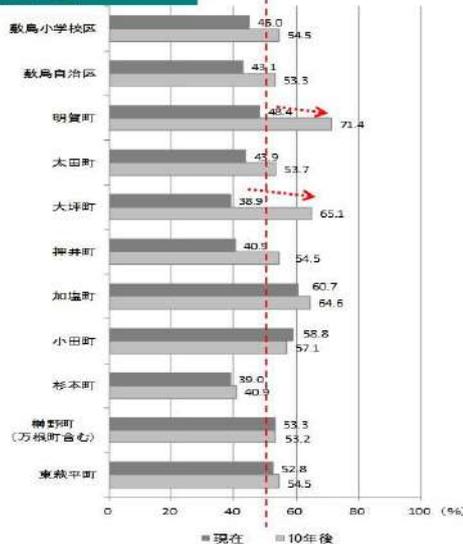
1-1 地区の人口の増減(アンケート結果から)

- アンケート結果によると、**敷島自治区の人口は、10年間で23.0%減少**することになります。
- すべての町で減少が予想されます。中には、減少率が40%近く減少する町(太田町)もあります。
- 人口減少が進行しているのは、加齢等に伴う死亡数が、出生数を上回る**人口の自然減少**が進行していることが**主な原因**です。また、自治区への転入に対して転出・転居が上回る**人口の社会減少(人口移動減)**も原因になっています。



1-5 地区の高齢化率の現在と10年後

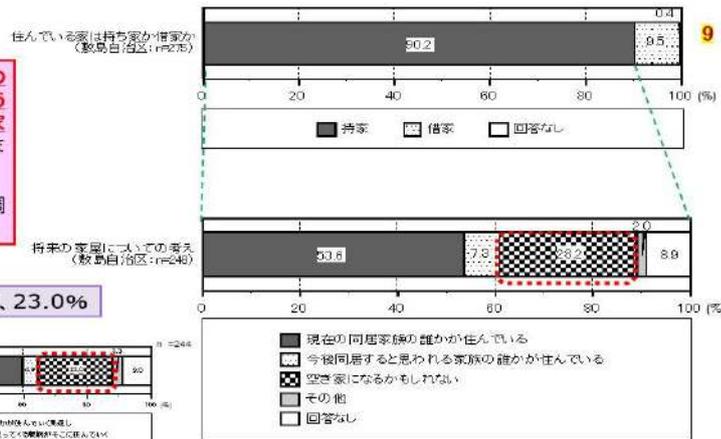
- 敷島自治区では、高齢化率が10年後に10.3ポイント上昇し、自治区の半数以上の人(54.5%)が高齢者になります。
- 杉本町を除くすべての町が高齢化率50%を超えます。
- 大坪町や明賀町では大幅に高齢化率が高まります。



2-1 住まいの現状と将来(敷島自治区)

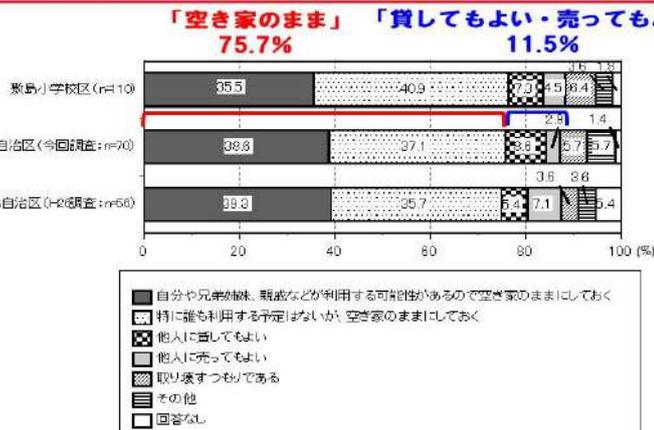
- 10年後には、**持ち家の28.2%(70戸[309戸のうち87戸相当])が空き家**になることが懸念されます。
- 空き家問題は、前回調査結果以上に深刻化。

参考: 前回調査では、23.0%



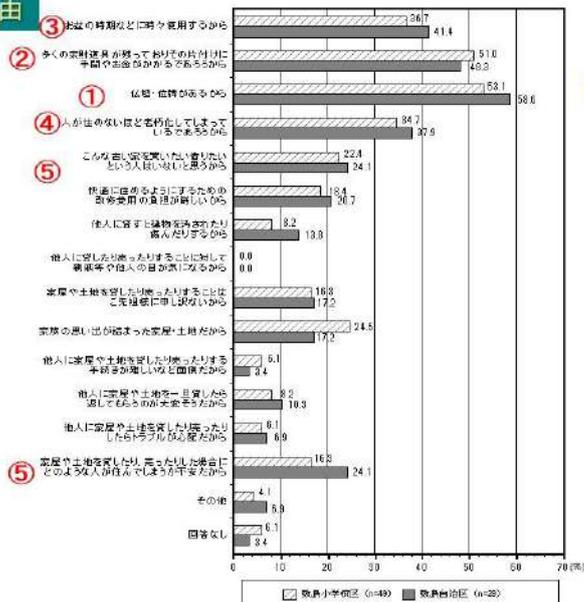
2-2 空き家の管理の考え方

- 空き家になることが懸念される家屋(70戸)のうち、「**空き家のままにしておく**」が**75.7%(53戸)**を占めています。一方、「貸してもよい・売ってもよい」は、11.5%(8戸)と僅か。
- なお、前回調査では、75.0%(42戸)でした。敷島小学校区では、76.4%(84戸)です。
- **空き家は増えて、その流動化が進まないことが懸念されます。**



2-3 空き家のままにしておく理由

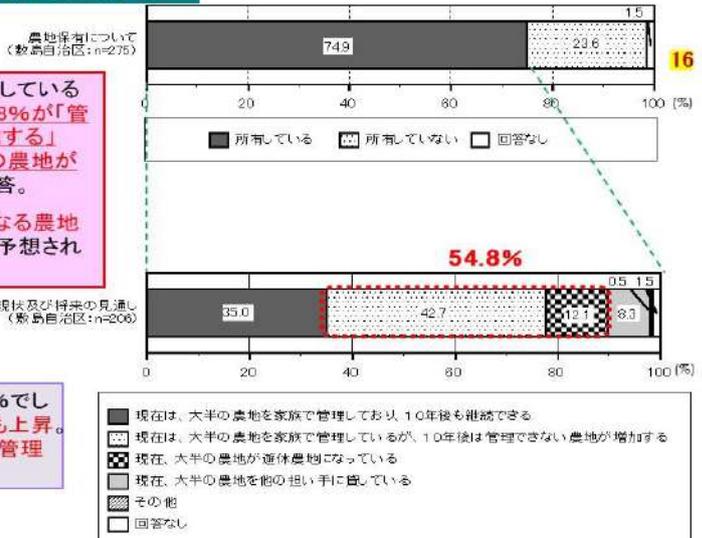
- 1位: **仏壇・位牌があるから**
- 2位: **多くの家財道具が残っており、その片付けに手間やお金がかかるから**
- 3位: **お盆などの時期に時々使用するから**
- 4位: **人が住めないほど老朽化してしまっているから**
- 5位: **こんな古い家を買いたい借りたという人はいないと思うから**
- 5位: **家屋や土地を貸したり、売ったりするした場合にどのような人が住んでしまうか不安だから**



3-1 農地の現状と将来(数島自治区)

- 10年後には、農地を所有している世帯のうち、合わせて**54.8%**が「**管理ができない農地が増加する**」(42.7%)や「**現在、大半の農地が遊休農地**」(12.1%)と回答。
- 各世帯では**管理できなくなる農地が大幅に増加**することが予想されます。

参考: 前回調査では、42.2%でしたので、**12.6ポイントも上昇**。将来的な農地の保全・管理は深刻化している。



3-2 世帯で耕作できなくなった農地の今後の考え

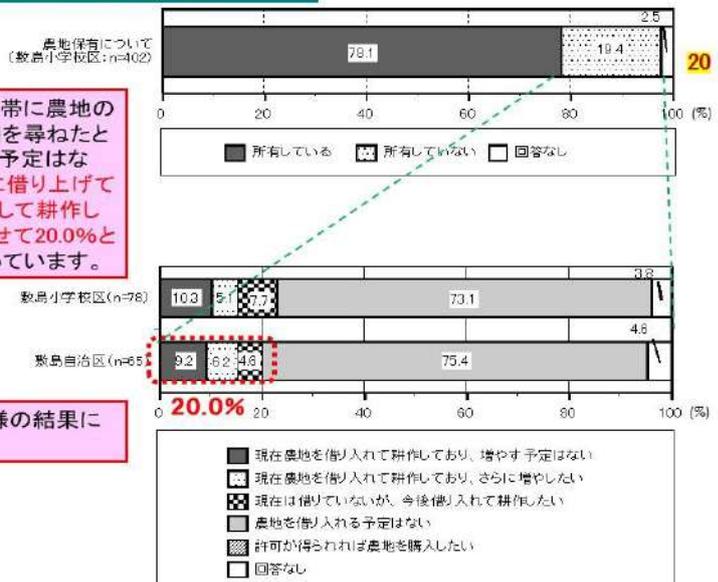
集落営農を利用する意向が高い。



3-3 農地非所有者の農地の借り入れ状況・意向

- 農地を所有していない世帯に農地の借り入れ状況と借入意向を尋ねたところ、「**農地を借り入れる予定はない**」が75.4%を占め、**既に借り上げている世帯、今後借り入れて耕作したいという世帯は、合わせて20.0%**とあまり多くない結果となっています。

- 数島小学校区も概ね同様の結果になっています。

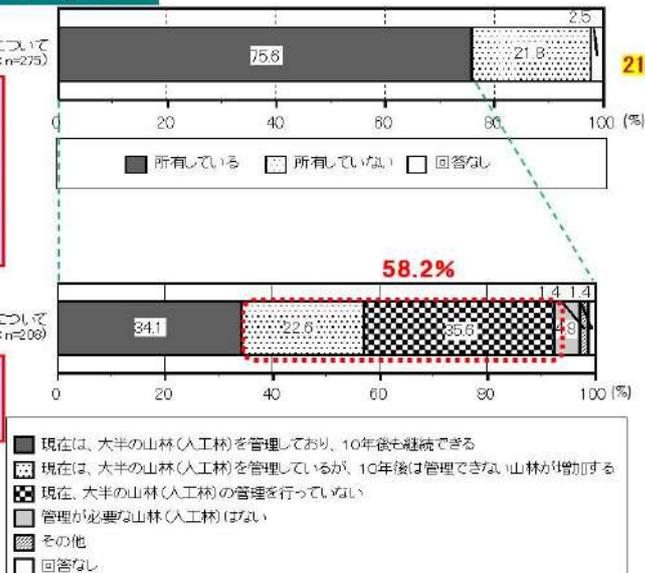


4-1 山林の現状と将来(敷島自治区)

● 10年後には、山林を所有している世帯のうち、合わせて**58.2%**が「**管理ができない山林が増加する**」(22.6%)や「**現在、大半の山林の管理を行っていない**」(35.6%)と回答。

● **管理できなくなる山林が大幅に増加することが予想されます。**

参考: 前回調査では、51.5%(25.5%+26.6%)。前回調査結果よりも深刻化。



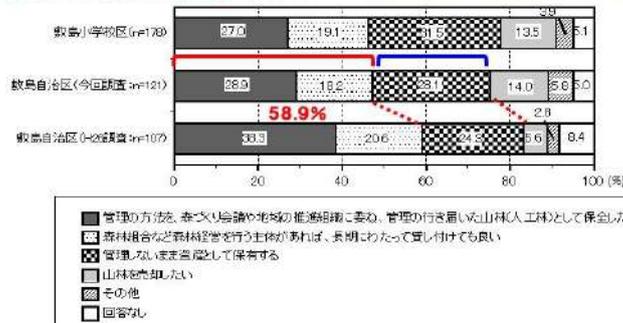
4-2 世帯で管理できなくなった山林の今後の考え

● 管理できなくなることが懸念される山林があると回答した121世帯のうち、「**管理しないまま資産として保有する**」という回答は28.1%(34世帯)。前回よりも割合が増加。

● 一方、「**管理の方法を、森づくり会議や地域の推進組織に委ね、管理の行き届いた山林(人工林)として保全したい**」や「**森林組合など森林経営を行う主体があれば、長期にわたって貸し付けでも良い(現在はこのような制度はありません)**」といった何らかの方法で保全したいと回答した世帯は、47.1%を占めています。前回よりも割合が減少。

● 前回調査に比べて深刻化。

「何らかの方法で保全」47.1% 「管理しないまま」28.1%



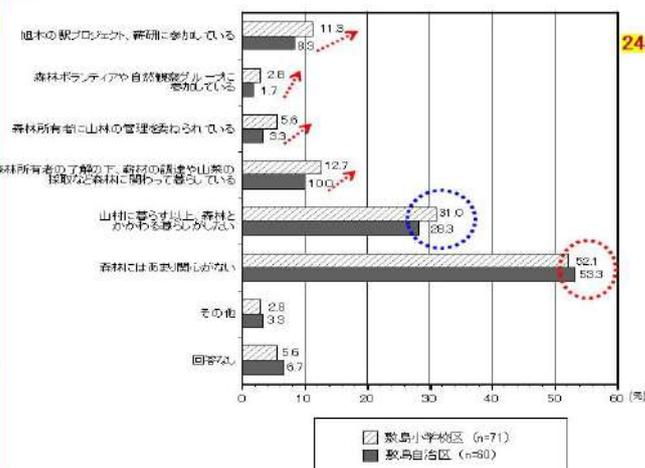
4-3 山林の現状と将来

● 山林を所有していない世帯(21.8%、60世帯)に対して、森林と関わる暮らしについて尋ねたところ、「**森林にはあまり関心がない**」が53.3%を占めています。

● しかしながら、「**山村に暮らす以上、森林と関わる暮らしがしたい**」という世帯も28.3%みられます。

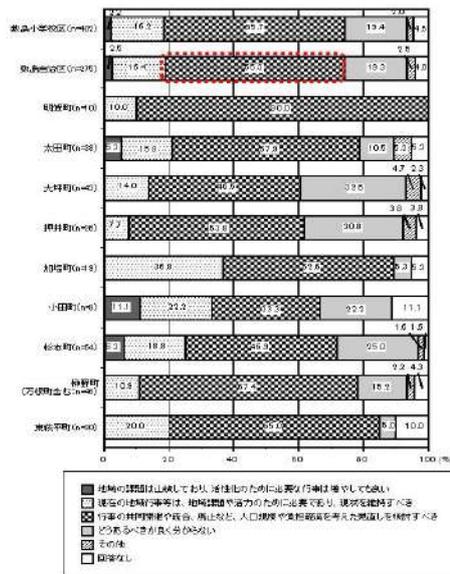
● また、「**新材の調達や山菜の採取など森林に関わって暮らしている**」(10.0%)をはじめ、既に何らかの形で森林に関わって暮らしをしている非山林所有者もみられます。

● 森林とのかかわりは敷島自治区よりも敷島小学校区の方が若干強い傾向が見られます。



5-1 地域行事などのあり方

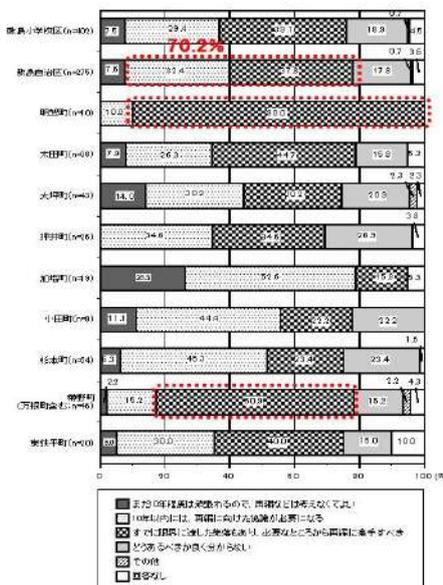
- 地域行事などのあり方について尋ねたところ、「共同開催や統合、廃止などの見直しを検討すべき」が55.3%と過半数を占めています。
- 一方、「増やしてもよい」(2.5%)と「現状を維持すべき」(16.4%)は合わせて18.9%にとどまっています。
- 敷島小学校区でも概ね同様の結果です。
- 町内会によって差異はあるものの、「共同開催や統合、廃止などの見直しを検討すべき」との意見がどの町内会でも一番多くなっています。



25

5-2 地域組織の再編の考え方

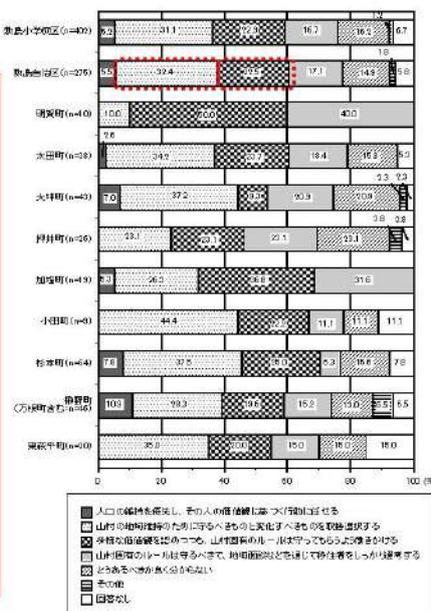
- 地域組織の再編のあり方について尋ねたところ、「すでに限界に達した集落もあり、必要などから再編に着手すべき」が37.8%と最も多くを占めています。
- 特に明賀町と排井町で多くなっています。
- 「10年以内には、再編に向けた協議が必要になる」(32.4%)と合わせると、70.2%になります。
- 敷島小学校区でも概ね同様の結果です。



26

5-3 今後の地域運営のあり方 (移住者受入との関係から)

- 今後の地域運営のあり方について尋ねたところ、「山村の地域維持のために守るべきものと変化すべきものを取捨選択する」が32.4%を占め最も多く、次いで「多様な価値観を認めつつも、山村固有のルールは守ってもらう働きかける」(22.5%)が多くなっています。
- 変化を受け入れたりや多様な価値観を認めるなど、柔軟かつ中庸的な考え方が多くを占めています。
- 一方、「人口の維持を優先し、その人の価値観に基づく行動に任せる」は僅か5.5%と少なく、「山村固有のルールは守るべきで、地域面談などを通じて移住者をしっかり選考する」(17.1%)を下回っています。
- 敷島小学校区でも概ね同様の結果です。
- 町内会によって差異はあるものの、全般的に柔軟かつ中庸的な考え方が多い傾向がみられます。



27

資料 公開討論会講演および発言要旨・意見

- 1 目的 めざす地域の将来像を共有し、効果的にまちづくりを進めるための「しきしまときめきプラン 2020」策定に向け、議論を深め、計画を住民に身近なものにするため、公開討論会を開催します。

アンケート結果から、空き家や耕作放棄農地の著しい増加が見込まれ、対策がなければ深刻な状況に陥ることが想定されます。計画素案では、今後も定住対策を重点的に推進する一方、人口減少は避けられないものとして受け止め、少数、低密度社会において、支え合いを基軸にいかに幸せな暮らしを持続化させるかの視点が重視されています。

- 2 日時 令和1年12月7日（土）午後1時～4時

- 3 場所 敷島農村環境改善センター（敷島会館）豊田市杉本町奥西山49

- 4 基調講演 テーマ『支え合いによる幸せな暮らしと農村の未来』
講師 早川富博氏（足助病院名誉院長
（株）三河の山里コミュニティパワー社長）

5 討論	区分	氏名	所属等
	コ者ディネーター	加藤 栄司	(一社)地域問題研究所
	計画発表者	鈴木 辰吉	プラン策定委員長
	討論参加者	1 鈴木 正晴	壮年男性(自治区顧問)
		2 加藤 浪子	壮年女性
		3 中垣 伸哉	若者
		4 浅野 陽介	若者
		5 長澤 壮平	Iターン男性
		6 川合 美佳	Iターン女性
		7 松井 春薫	中学生（3年生）
		8 神谷 友貴	都市部住民（ぬくもりの里）
		9 大橋有美子	都市部住民(さくら村利用者)
		10 後藤 和芳	町内会長(押井町)
		11 林 如実	事業所(林洋ラン)
	12 松井 恵美	子育て世代の母	
	助言者	南 良明	豊田市旭支所長
		早川 富博	足助病院名誉院長

基調講演 『支えあいによる幸せな暮らしと農村の未来』 講師 早川富博 氏
(足助病院名誉院長、(株)三河の山里コミュニティパワー代表取締役)

(基調講演要旨)

私は、23年前から足助病院に勤務し、医師として医療に携わってきたが当初から在宅患者宅にテレビ電話のような装置を設置し、病院にいる医師と繋ぎ今でいう遠隔診療の取り組みをしてきました。当時は、通信が電話線でしたので画像が悪いなどの課題もありましたが、重症



心身障がい児の遠隔診療には効果的でした。他にも ICT（情報通信技術）を活用して、医療、保健、福祉との情報連携や元気アップ体操、講演会もしてきました。

高齢者の増加に伴い増えていく認知症に関するアンケートを8年前に実施した際には、5割の人が認知症になったことを地域の人に知ってほしいと言っていて、6割の人が認知症の人を地域ぐるみで支えてあげたいと言ってくれました。認知症予防には、趣味があるとか、毎日何かしらやる必要があることが重要です。しかし、そのために出かけたくても送迎を頼める家族がいなかったり、バス停まで遠かったり、最近では熊の出没も心配ですね。

病院は地域のコミュニティの場であり、地域医療はまちづくりだと思っています。高齢化社会の先進地区といわれるこの地域で、高齢者をどのように見守るかが課題となっています。そこで、これまでの経験を生かして3年前に名古屋大学と「たすけあいプロジェクト」を開始しました。今はその事業を継承・発展させる会社である My パワー（株式会社三河の山里コミュニティパワー）を設立し、豊田市、中部電力などと協力し3年間の実証を行います。高齢者にタブレット端末を持ってもらい、「移動支援」では、ボランティアドライバーの車に相乗りできる仕組みや、「おでかけ促進」では、病院での講座などの情報を発信、高齢者宅に人感センサーを付けて安否確認ができる取り組みを足助、旭、今年から稲武で行っています。ボランティアドライバーには、500ポイントたまると旭木の駅プロジェクトのモリ券に交換もできます。課題は、保険代など運営にお金がかかることとボランティアドライバーを登録してもらうことです。

運営資金は、My パワーが電力小売事業を行った収益をもとに地域のみなさんにサービスを提供します。まずは、山間部の公共施設との契約を進めています。近い将来には、個人宅との契約や再生可能エネルギーの開発、エネルギーの地産地消にも取り組む考えです。

人口が少なくなっても持続可能な社会を作ることが大切です。たすけあいの取り組みを地域住民参加により進め、移手段確保、医療・介護予防、防災防犯、教育福祉などあらゆる分野の地域課題解決に繋がればと思います。

公開討論会発言要旨

コーディネーター 加藤 栄司 氏（一般社団法人 地域問題研究所長）

① 自己紹介とどの重点プロジェクトに興味がありますか

鈴木正晴 太田町に73年住んでいますが、世帯数の減少で退職後色々なことに携わり、地域を守らなくてはと思っています。今は、旭中学校地域学校共働本部地域コーディネーター、農産物出荷取りまとめ、旭観光協会会長などをしています。プランでは、人口減少を踏まえ、縦割りではできないことを3つのプロジェクトにまとめたことが良く、特にプロジェクト②に興味があります。



加藤浪子 榊野町に嫁いで48年です。若いころは自分の生活のことが中心でしたが、地域を良くしたいと考えられる年代になったので、地域のお手伝いに役立つよう中高年齢層の生きがいつくりアドバイザーの資格を取りましたが、資格はなかなか生かせていません。プロジェクト①にあるIターンやUターンの定住を地域活性化に結び付けられたらと思います。

中垣伸哉 榊野町在住の31歳です。高校・大学で地域外に出ましたが今は戻って森林組合に勤め、消防団の活動もしています。子どもが1歳のためプロジェクト①のこどもパラダイスに注目しています。自治区としてこのようなプランがあることは心強く、みんなで取り組めるよう期待しています。

浅野陽介 杉本町在住の31歳です。敷島に来て4年で、合同会社アサノエンタープライズと旭観光協会職員もしています。本当に大切なことに取り組む時間を確保することと、それに相反して自分の集落が存続していくことの誇りもあり、そのバランスが必要だと思うのでプロジェクト③に興味があります。

長澤壮平 東萩平町に4年前にIターンで来て5歳の子どもがいます。中京大学、南山大学に勤務していて草刈りなど疎かになることもありますが、旭の過ごしやすさを痛感しています。2年前から2反歩借りて稲作をし、地域の農業従事者が一気にいなくなる危機感をリアルに感じています。集落営農組織化のプロジェクト②に興味があります。

川合美佳 榊野町にIターンして、夫は海外赴任のため中2と小5の子ども3人で暮らしています。つくラッセルのスタッフのほか、わくわく事業のやぎ飼いの会の活動でやぎを連れて旭地区をまわっています。プランでは、多くのU・Iターン者と共に、という視点がうれしいです。Iターン者が地域で住み続けるうえでの課題もあると思うのでプロジェクト①について興味があります。

松井春薫 榊野町に住む旭中学校3年生です。プロジェクト①の次世代育成に興味があります。伝統を受け継ぐのは私たち世代の役割だと思いますが、周りのみんなに聞くと敷島

の活動に興味がなかったりして、将来は豊田市の市街地や県外に出ることを考えている人も多いです。そのため、プロジェクトで少しでも地域の魅力が敷島の子も達に伝わればと思います。

神谷洋美 都市部住民として参加ですが、私は旭で生まれて子育てもして夫の親の介護と子どもの高校進学で今は安城市に住んでいます。現在は、社会福祉協議会の旭支所長をしています。ぬくもりの里ではデイサービスや相談事業の他にも地域づくり事業で「笑顔と支え合いのまちなみ」とい旭を目指そう」として福祉特派員制度等もやっています。プロジェクト①について一緒に考えたいと思います。



大橋有美子 豊田市乙部ヶ丘で13年、出身は名古屋の3児の母です。フリーランスのデザイナーとして時間と場所に縛られない働き方をしています。自分の地域以外での子どもの居場所を求めて、東萩平町で安藤さんが実施している「ガキ大将養成講座」の活動に参加して3年になります。プロジェクト①に興味があります。

後藤和芳 押井町で町内会長をしています。押井町では、高齢者クラブの活動があり私もメンバーですが、今日は午前中に公会堂、炭焼き小屋、花壇の手入れや草刈りを行い、昼から忘年会をするといった活動もあります。プロジェクト②に興味があります。

林 如実 榊野町に来て22年で、林洋ラン園を営んでいます。敷島自治区から旭地区コミュニティ会議に参加し文化部会長を3年務めているほか、旭文化交流会の書記などもしています。様々な地域の会議に参加する機会があるため、プロジェクト③について考えたいと思います。

松井恵美 押井町に来たのは、12年前に長女が杉本こども園に入園するのがきっかけでした。フリーランスの歯科衛生士として、旭、足助、稲武地区を中心に活動しているほか、今年は自治区次世代育成部の副部長も務めていて、福祉健康に興味がありますのでプロジェクト①について考えたいです。

②重点プロジェクトへの感想と期待することは

・プロジェクト1について

中垣伸哉 田舎だけど子どもが外で遊べる場所が無いと感じているので、特にこどもパラダイスに期待したいです。Iターン世帯など近居でないために祖父母に子守りなどの協力が頼みづらい方たちにとっても、仕事と子育ての両立のために必要だと思います。

大橋有美子 都市部の団地は公園も整備されていますが、ボールを使った遊びはダメとか、いろいろなルールがあり、子どもにとって遊びにくい環境です。大人による色々な制限が無いなかで様々な経験ができれば良いなと思い、ガキ大将養成講座に参加しています。敷島に遊びに来る時に感じる「山に入っていく高揚感」は、田畑や山が整備されているから、そこに暮らす人たちによって景観が守られているからだと思っています。

長澤壮平 都市部に比べてこの地域の子育て環境というのは圧倒的に良いと思っています。私の子どもは旭に来て、山村であるからこそその豊かな経験をすることができていて、

やたら勉強できる要素はあふれている。また、近所のおじいさんおばあさんが野菜をくれたり可愛がってくれたりする。そういうことを求めて来た私にとっては、すべてが良すぎるくらいに感じています。

川合美佳 Iターン者は増えていて、中学校では半分がIターン者の子どもという学年もあります。ただ、Iターン世帯の子どもの高校進学とか、モデルが無くて不安にも感じています。そのほか空き家バンク制度の今後や、現在の借家の修繕のこと、別の地域に暮らす親の介護なども不安に思いながら暮らしています。たすけあいプロジェクトは、高齢者だけでなく若い世代にもニーズがあると思います。

松井春薫 小学生の頃から何度かこういう話題で意見を聞かれますが、その後の変化を実感として感じられない。高齢化や人口減少が進むなか、今のまま変化なく時間が進んでいくのなら（高齢化などの地域課題に）責任を感じて暮らしたくない、と考えている同級生も多いと思います。プロジェクトの実現など、変化が実感できるなら、考えを変える人たちも出てくると思うので、まずは実現すること、結果を伝えることが大事だと思います。



南旭支所長 豊田市では地域会議ということで大人を中心に地域課題の解決などに取り組んでいますが、今年度から旭地区では旭中学校に協力してもらい、中学生版の地域会議も行っています。来年度は中学生版の「わくわく事業」ということで、実際に予算をとって中学生のみなさんの夢を実現する、そのような準備をしていることを紹介させていただきます。

加藤浪子 空き家バンクの貸主のなかには、希望があれば家を譲っても良いと考えている人もいます。ただ、旭地区の家の大半が急傾斜地などの理由から、建て替えのできない土地に建っているの、譲る側としても遠慮してしまうし、子どもの進学など考えると不便な土地なので、譲っても本当に定住してもらえるのだろうかと考えてしまう。農地の宅地化を可能にするなど、安心な宅地が確保しやすくなるの良いと思います。

中垣伸哉 農地の宅地化については、Uターンを考えている人たちからも、結局家が建てられる土地が無いからUターンをあきらめる、という話は聞くので良い取り組みだと思います。

神谷洋美 家族の介護はみんなが経験する問題なのに、ぬくもりの里の利用者を見ていると、支えられる（誰かのお世話になる）ことが下手で遠慮のかたまり、と感じる場面が多くあります。支えている人もやがて支えられる人へと移っていくのだから、支えられることが当たり前、と思えるようになっていかないといけないと思います。介護保険の利用も「介護保険を利用するようになってはもうダメだ」ではなく「介護保険は自立支援と重度化防止、元気になるために介護保険を利用する」というように意識を変えるべきだと思います。

松井恵美 歯科衛生士として市の委託を受け、地域の高齢者などを対象に集団指導などを行っています。活動を通じて感じるのは、旭地区の高齢者の方が歯科に関する知識を得る

機会が少ないということ。歯医者に行けなくても、訪問診療とか、歯の健康に関するアドバイスなどが受けられる機会は市の事業などであるので活用してもらいたいと思っています。

・プロジェクト2について

長澤壮平 耕作放棄地について、東萩平も大坪も農業の従事者が高齢ということもあり、一気に耕作できなくなる可能性はあると思っています。そういうなかで、押井町の取組はすごいと思います。やがては営農組織が収入の場となり、定住対策にもなる。そんな風になれば良いなと思っています。



鈴木正晴 旭に交流で来た方たちが「緑一面の田んぼが美しい」など、私たちが当たり前と思っていたことをワイワイ言って喜んでくれる。私たちがしていることはすごいこと、良いことなのだと思えるようになりました。僕も百姓嫌いだったから休耕地は草ぼうぼうだった。でも、それではだめだと気づきました。先日、ある冊子に「田んぼがあるから集落があるんだ」「地べたに根を張った者でなければ故郷は守れない」と書かれていた。今まで思っていたことはそういうことだったのだな、魅力ある地域になるには農業がないとダメだなと。地域の農地を守り続けるには発想の転換が必要で、その点でこの自給農家という取組みはその元を持っているのではないかと思います。

後藤和芳 (押井町の取組について) まず年長の方が安心したのがこの方式は農地を一旦営農組合が全部借り上げて、でもまだ元気だから耕作できる、という方は個々でやる。そうでない方は営農組合が耕作して自給家族の方に販売するという仕組みです。自分はいつやめても、あとは営農組合がやってくれる、という安心感があって、今までは俺の代で終わりかな、いつまでやれるかな、っていう悲観的な思いがあった方たちも、この方式で肩の力が抜けたと聞きます。プロジェクトの成功は、地域の方、地主さんすべての方が承諾して、農地が歯抜けにならないようにすることが大事だと思います。将来的には対象農地が増えて若い人の就労の場にもなると良いと思います。

・プロジェクト3について

林 如美 「あさひまつり」も芸能祭が中学校の文化祭と合同になり、変化をしていく時期なのかなと思っています。人が減ってきて行事など今まで通りにできなくなってきている状態であるにもかかわらず、それでもやらなくてはいけない強迫観念みたいなものがあるとなかなかやめられない。同じ人にばかり負担がかかっている、ということもあるので、続けるには全員参加で取り組まないといけないと思います。

浅野陽介 Iターンだが、この地域に住んでいるからには頼まれたらというか、色々やってみようと思っています。しかし、毎年11月は特に忙しく、1週間先のことも考えられないという状態。好きでやっているのが良いが、それでも「忙しいなあ」と思います。未来の構造改革プロジェクトを、今たくさんある行事などを減らしていくことだと考えると、「衰退する」というイメージを持つかもしれないが、行事やお役を整

理するということは、私たちにとって本当に大事なことを考えることなのかなと思います。スリム化、効率化することで、もっと大事なことに取り組める時間ができる、というふうに思っています。

③新たなステップのキーワード（フリップ使用）

鈴木正晴 「〇人〇」人口減少時代を迎える中でやはり一番大事なものは人。人はリーダーであり担い手。この地域は中学生から大人まで志が高い人がたくさんいます。私としては関係人口を増やせるよう頑張りたいです。



加藤浪子 「結いの精神を」ちょっと古いかもしれないが、この地区ではお互い助け合う精神があったが、薄れてきている感じがある。しかし、自分のできることで助けあうことが大切で、そういう雰囲気を作っていけたらと思います。

中垣伸哉 「同世代・次世代とのつながり」消防団に自分よりも若い世代で入っている人が少ない現状。入っていない人たちとも交流を広げていきたいです。

浅野陽介 「ときめき」ときめき♡プランの名前通り、あれもやらなきゃ、これもやらなきゃと負担に感じるのではなく、楽しんで取り組みたいと思います。



長澤壮平 「農地と景観をきれいに」田んぼが美しいことに感動してくれた、という話のように、自分も田畑をやっているので守っていきたいと思います。

川合美佳 「人と作物の根が張る土壌を耕す」宅地の施策とかいろいろな取り組みが進んで人も作物も根っこが張っていけると良いと思います。

松井春薫 「すべての人が頼り頼られる存在に」大人だけが頑張るじゃなくて、子どもも小さいけれど戦力になるのでぜひ頼って欲しいなと思います。

神谷洋美 「ありがとうを多くの人から」この「ありがとう」は支えてくれるから頑張るよ、という宣言のありがとうございます。

大橋有美子 「子供たちに原風景・原体験を」都市部と農山村、別のものかなと思っていたけど実は一体というか同じに考えていきたいと思います。

後藤和芳 「興味」仲間に興味を持つという意味です。

林 如実 「進化」いろいろ拡大するにしても縮小するにしても進化しないといけないと思います。



松井恵美 「医療」豊田市中心部と同じような環境で医療が受けられるようになると良いと思います。

ときめきプラン素案に対する意見

■意見募集期間 令和1年11月9日（土）～12月14日（土）

■主な意見の要旨（意見総数 29 件）

- ・中学生の意見も募集して欲しい。(10代)
- ・農地を荒らすことは村を滅ぼすことにつながる。集落営農の推進を。(80代)
- ・高齢化は止まらない。先に見える農業、集落営農が重要になる。(70代)
- ・素敵な討論会だった。もっと多くの人に聴きにきてもらうべき。誰にもできることはあるはず、皆が動けば地域は変わると思った。(40代)
- ・決定や自治をできるだけ小さい単位で行い、できないことのみ大きな単位の団体で保管する「補完性の原則」を基本に置くと良い。(50代)
- ・犯罪のないまち事業、性の健康教育（人権教育）が必要。「支え合い社会創造プロジェクト」として、出産後のサポートの仕組みづくりがあると良い。(40代)
- ・町内会の単位は、神社が基本になっているが、新しい枠組みが必要だ。(不明)
- ・地域の負担にならないようにプランが実現できるのが理想。(不明)
- ・計画の具現化を担保する企画会の充実を期待。(60代)
- ・中学生のはっきりした発言に感動した。プロジェクト2に参加したい。(60代)
- ・無理せず、継続できるプランを望む。(不明)
- ・たすけあいプロジェクトの医療関係の取組みに参加したい。(不明)
- ・こどものため、PTAの負担軽減のため小学校の早期統合。伝統文化や草刈りなど地域行事の負担が大きい。こどもパラダイスは使う人がいるか疑問。夏祭りの時間短縮、あさひまつりも1日でできないか。意見箱の常設を希望。(不明)
- ・同様の課題を抱えている、プロジェクトが停滞しており学びたい。(地区外60代)
- ・中学生の提案をわくわく事業で具現化する取組みに倣いたい。(地区外70代)
- ・私のまちでもこのような取組みをしたいと思った。(地区外60代)
- ・足助高校の中高一貫化が実現できると良い。(地区外50代)
- ・構造改革プロジェクトは、共通する課題、横展開して欲しい。(地区外不明)
- ・集落営農を進めるため「しきしま担い手人材センター」の設立(80代)
- ・木材の利用拡大による価格向上、竹林の竹炭としての活用。(70代)
- ・集落営農組織化は必須。皆が宅地周りも含め美化に努め農村景観を守る。(70代)
- ・高齢者の外出機会の拡大のため、たすけあいプロジェクトの強化。(70代)
- ・お金を払ってでも草刈りを依頼できる仕組みづくりを。(60代)
- ・子育て特区をめざす。(50代)
- ・農振除外の更なる緩和。防犯カメラの設置、自治区青パト導入。(60代)
- ・分譲住宅、婚活イベント。(50代)
- ・自治の行政からの自立(不明)



令和1年12月11日（水）中日新聞

豊田北部・敷島自治区の活性化計画



多くの人が傍聴に訪れた公開討論会＝豊田市杉本町で

「過疎化止めたい」熱く議論

過疎化が進む豊田市北部、旭地区の敷島自治区では、来年度スタートする住民主導の地域活性化五カ年計画「しきしま♡ときめきプラン2020」の策定作業が大詰めを迎えている。七日には自治区の役員らで構成する策定委員会がつくった素案に対し、住民や関係者から意見を聞く公開討論会が自治区内の杉本町であり、熱い思いが寄せられた。

（久野賢太郎）

一〇〜一四年度に始まった五カ年計画は一五年度からの第二弾が最終年度を迎えた。第三弾では「過疎化ストップにチャレンジする」「しきしまの宝を守る」「安心して暮らせる基盤をつくる」の三つを基本に、それぞれに対応する「社会創造」「農地保全」「構造改革」のプロジェクトを掲げる。討論会では移住者も含めた住民十人と、自治区外の二人が思いを述べた。

「社会創造」では、子どもたちが安心して遊び学べる「こどもパラダイス」の設立、空き家への定住促進、地域のお年寄りの見守りと身の回りの困り事解決サービス「たすけあいプロジェクト」を柱に、住みよい自治区を目指す。プロジェクトは市内の中山間地域で六月に発足した新電力「マイパワー」の売電収入を基に実施するため、契約の獲得も必須だ。

自治区内の自然豊かな環境で子どもを遊ばせるため、地区外から通う大橋有美子さん（@）は「都市部は木登りやボール遊びが禁止されるなど制約がある。子どもが伸び伸び遊べる空間は魅力」と期待し

住民ら魅力強調「伸び伸び遊べる」農地で収入も

一方「農地保全」は、自治区内の押井町で既に実現している。町内全世帯で営農組合をつくり、農地を集約管理に転換。米の栽培契約を結ぶ消費者「自給家族」を募る方式で、計画期間内に五町まで広げる。四年前に家族で移住してきた大学非常勤講師の長沢壮平さん（@）は「移住者は手持ち資金が少ないことも多い。農地での作業で収入が得られるのは大きい」と強調した。

「構造改革」は、人口規模に見合った地域の行事や組織の再編が軸。地区内で洋らん農家を営む林如美さん（@）は「同じメンバーがやっている行事もあり、関わっていない人もいる。催しを取捨選択して移住者も巻き込めば、活性化にもつながる」と期待した。

将来世代を代表し、旭中三年の松井春薫さん（@）は「地元の魅力を感じている同級生は少なく、このままでは進学後に旭に戻ってこない」と危機感を示した。

自治区では討論会の内容を精査し、プランに盛り込む。策定委員長を務めるおいでん・さん（@）は「それぞれの熱い思いを反映させ、自治区の魅力を向上させる」と決意した。

令和1年12月20日(金) 矢作新報

令和2年1月24日(金)
とよたみよしホームニュース

自治区の先進的取り組み

豊田市旭地区の敷島自治区が7日、まちづくりビジョン「しきしま・ときめきプラン」のリニューアル策定に向けた説明と公開討論会を開き、地域住民や関係者など約70人が参加した。自治区単位で地域の長期計画を策定し、公開討論会まで開くのは珍しい。先進的な事例だ。

同自治区では2010年から5カ年単位で行動

豊田市旭 敷島自治区

まちづくりビジョン「しきしま・ときめきプラン」リニューアル策定

計画も策定してきた。今回新たな策定にあたって全世帯アンケート調査をあらためて実施し、世帯数や空き家等の実態を把握。内容を発展させるため次の3つの重点プロジェクトを掲げた。

①高齢福祉と教育について事業化し課題解決に取り組む。

②農地と景観を守るため農業力を入れ「自給家族」モデルを広げる。

3つの重点プロジェクト

- ・ 高齢福祉と教育
- ・ 農地と美しい風景
- ・ 幸せな暮らしの実現

③行事や組織を再編して取り組むやすく、人口減少と高齢化の中でも幸せな暮らしを実現して定住促進につなげる。

プラン説明に続いて行われた公開討論会には、地域の70代子育て世代、移住者、中学生、地元出身の都市在住者など13名が参加し、熱のこもった意見を交わした。

中3年の松井春香さんは「小学校の時から授業で何度も、地域の魅力の再発見や、地域活性化のアイデア提案をやってきましたが、それが生かされたのか分からないまま繰り返している」と発言、会場が沸いた。

討論会でも出された意見は計画のなかに盛り込み、3月の自治区総会で決定する予定。プロジェ

クトチームを組む4月から実行していく。

総合計画策定委員長の鈴木辰吉さんは「中身の濃い討論会になりました。特に中学生の発言は会場がハッとさせられたと思います。学校と地域が連携して生きた学びや人間力を育てることが今の時代に求められています。また学校の魅力が高まることはリタイア後の増加にもつながると思います。またまちづくりが進む重要な機会に盛り込まれており、今後の展開がますます楽しみです。」

【地域記者 戸田代】



様々な意見があふれた討論会

はじめに策定委員会委員長の鈴木辰吉さんが素案の概要を説明。続いて足助病院名誉院長の早川富博さんが「支え合いによる幸せな暮らしと豊村の未来」の演題で基調講演をしました。その後、討論会に入り、女子中学生、壮年男女、若者、一ターンの男女、事業家、都市部住民など、さまざまな顔ぶれの12人が登壇しました。

平成27年に作成した「プラン2015」が今年度で5年間の行動計画を終えることから、社会環境の変化をふまえて見直しを図りました。昨年7月に342の全世帯に10年後の世帯状況を調査する「私と家族の将来像アンケート」を行い、回しつら年の計画素案を作りました。素案は、人口減は避けられない事実と受け止めながら、いかに幸せな暮らしを続けていくかの視点で検討されました。

素案で重点施策とする▽支え合い社会創造▽自給家族による農地保全▽未来への構造改革の3つについて、それぞれ意見を述べ合いました。地域問題研究所所長の加藤栄司さんのコーディネートで「子どもの高校進学」「親の介護」「定住のための住宅問題」など意見続々。本音で語り、思いを吐露し合う実りある場となりました。

令和2年1月31日(金) 中日新聞



下山村

市長選を前に

さまざまな世代の十二人が車座になり、意見を話し合う。それを同じ住民が傍聴席から熱心に聞き入る。昨年十二月上旬の昼下がりに、豊田市旭地区の杉本町にある敷島農村環境改善センターの会議室は、窓が曇るほどの熱気に包まれた。過疎化や少子高齢化の厳しい現実を直視し、それでいて暗い雰囲気とは無縁だった。

一九年度が最終年の第二次計画は、地区内の農地の集約管理による効率化が実現するなど、実を結びつつある。携わった男性は「地域に根を張った者だけが地域を守れる」と実感した」と話した。

ろべきだ。宣誓にも似た発言に誰もがうなずき、傍聴席からは拍手が起った。

住民発の計画

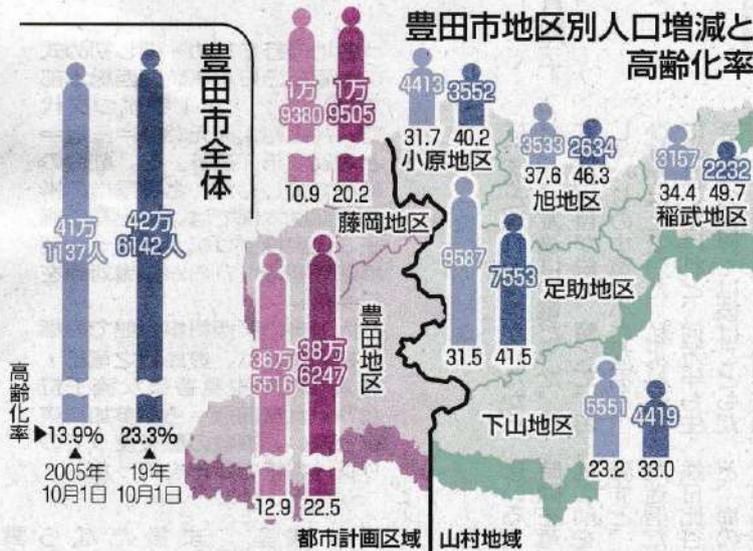
議題は、人口約千人の敷島自治区が住民主導で取り組む五カ年計画「しきしまときめきプラン」。二〇二〇年度から第二次計画が始まる。地域の山を生かした子どもの遊び場づくり、高齢者を集めた「おしゃべり会」の充実、行事のスリム化…。地域のおしたへのアイデアは尽きない。

「住民一人一人が『わがごと』として過疎化と向き合



白熱した議論が交わされた、ときめきプランの策定作業—豊田市杉本町で、2019年12月

過疎や少子化 住民目線で



【少子高齢化】
 ○五年の七市町村の合併から今年で十五年。都市計画区域の豊田、藤岡両地区は人口が増えたが、山村地域は軒並み減っている。稲武地区ではほぼ半数が六十五歳以上で、敷島自治区のある旭地区の高齢化率も46%を超える。市の現状について杉浦弘高市長は「少子高齢化というより、昇し、出生率も低下基調の

【無子高齢化】の段階に入っている」と強い表現で危機感を募らせる。合併後、市内では小学校六校が閉校。うち五校が山村地域だった。通学圏が広く、親の送迎やバスでの通学が必要な児童もいる。その地域バス網も縮小傾向にあり、状況は厳しい。

移住者がカギ

中、地域の少子高齢化の特効薬になりえるのが移住者の呼び込みだ。市は空き家バンクを設けるなど対策に乗り出しているが、一番大切なのは地域の受け入れ態勢。敷島自治区のとときめきプランでは、二五年までに十世帯の移住を目標に掲げている。

四年前に敷島に家族で移住してきた大学非常勤講師の長沢壮平さん(46)は川崎市出身。いわゆるイターン者だが「五歳になる子どもを地域ぐるみでかわいがってくれる。緑豊かで環境も圧倒的に良く、いいことづくめ」となじんだ様子だ。

後藤哲義区長(66)は「ときめきプランは『住民自治』の一つの形だと思っている」と胸を張る。第二次計画の五年間は次期市長の任期と重なる。「市長は(市役所のある)西町から眺めているのではなく、敷島に来て私たちの取り組みをその目で見てほしい」と願う。住民が主体の取り組みの全体的な広がり。それが山村地域の課題解決につながる」と信じている。

(久野賢太郎)

令和2年2月17日(月)朝日新聞

豊田の空き家情報バンク10年

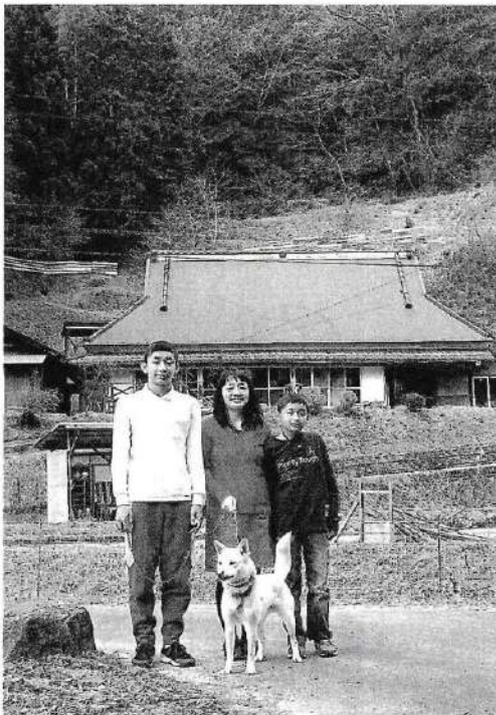
子育て世代の移住急増

中山間地などへの移住希望者に空き家を仲介する豊田市の「空き家情報バンク」。この数年、子育て世代の移住者が増え、移住世帯の中でもその割合が高まりつつある。空き家バンクが始まって今年で10年。なぜ、子育て世代の移住が増えているのか。

豊田市中心部から北東に約20キロの旭地区。長久手市出身の川合美佳さん(44)は2016年秋、息子2人と移住してきた。24歳から15年間、インドで暮らしていたが、子どもの教育のために帰国。工作機械の製造・販売会社を営むインド人の夫(50)はインドに残っている。夫と相談し、「自然豊かな場所が、この子たちに合っている」と移住を決断した。

いま住むのは、7部屋ある平屋。山に囲まれた環境を生かし、薪の配達や間伐材での小物作り、メンマの製造などで生計を立てる。2人の息子は中学2年と小学5年。「近所の人が声をかけてくれ、見守ってくれる。子育ての悩みも聞いてくれる」と、田舎での暮らしは、川合さんにとって

豊かな自然・心地よい人間関係



中山間地の空き家(後方)に移住した川合美佳さん(中央)の一家＝豊田市禰野町

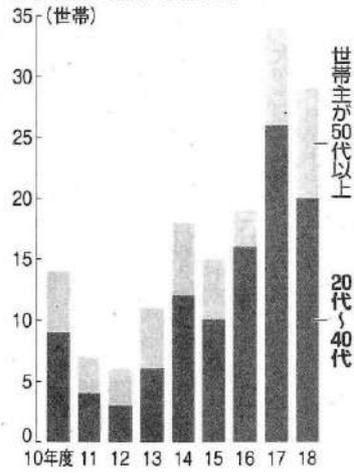
心地よいという。手作りのかしわ餅や五平餅などのおすそ分けもある。「都会は近所の人と距離を縮めるのが難しいが、ここなら協力し合いながら子育てをしている感じです」

中山間地を抱える旧6町村を05年に吸収合併した豊田市は、中山間地では過疎

化が進む。空き家を有効活用し、中山間地の定住者を増やそうと、市は10年度に「空き家情報バンク」を始めた。10～18年度の9年間で153世帯、370人がこの制度で移住した。

当初、20～40代が世帯主の移住世帯は年間1桁に

移住世帯の推移(豊田市)



とどまっていた。だが、14年度には12世帯に急増し、17年度は26世帯、18年度は20世帯にのぼった。移住世帯にしめる20～40代の割合も、16～18年度は、7、8割ほどで推移している。

豊田の中山間地で田舎暮らしをしたい人の相談に乗る市によると、中山間地の集落も「運動会や夏祭りがにぎやかになって欲しい」として、子育て世代の移住を望む声が多い。物件のストックは20軒ほどあるのに対し、移住希望者は2500世帯ほどで、大家が若い人に物件を貸したがる傾向があるという。

市は、子育て世代の移住者の増加を「起業や店舗の開業など、地域を元気にする人たちが集まるきっかけにしたい」と考えている。そのため、今後は起業を目指す若い人の移住を促す施策を検討している。

(小山裕一)

「しきしまときめきプラン」とは

地域の将来像を皆んなで共有し、効果的にまちづくりを進めるための「しきしま♥ときめきプラン2015」が、令和1年度をもって5カ年の「行動計画」期間を終えます。社会環境等の変化を踏まえ、新たなステップに向けた計画の見直しを行います。

2020 (R2)年 2024 (R6)年 2029 (R11)年

5年間の行動計画
アクションプログラム

10年間の長期構想
まちづくりビジョン

「私と家族の将来像」アンケートから

10年後の各世帯の「家族構成、家、農地、山林の管理」等について尋ねたアンケートから、現状を放置した場合、極めて厳しいしきしまの将来像が浮かび上がりました。(2019年7月調査)

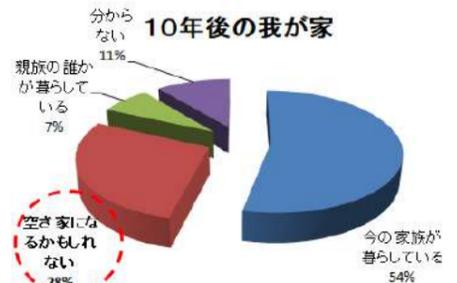
■人口は800人を下回り、7集落が「限界集落」になる恐れ

豊田市に合併して15年、人口は21.4%減少しましたが、今後さらに21.8%の減少が見込まれ、800人を下回る見込みです。また、高齢化率も52%まで上昇し、9集落のうち7集落が「限界集落」(右上の表 ㊟マーク)のレベルに達します。

※限界集落：人口100人未満、高齢化率50%以上(65歳以上)の集落で、お役や祭りなどの地域行事が困難になり、いずれ消滅に向かうとされる集落

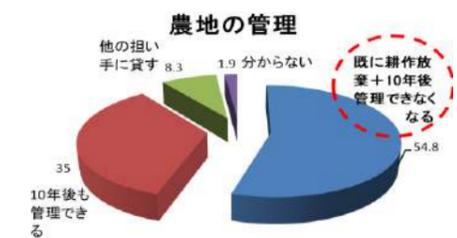
■5戸に1戸が空き家の風景は、まさに消滅していく地域の姿

「空き家になるかもしれない」と28%の世帯が答えています。5年前の調査23%を5ポイント上回りました。また、空き家の活用について、「空き家のまま」が76%にもなります。空き家を放置しない取組みが急務です。



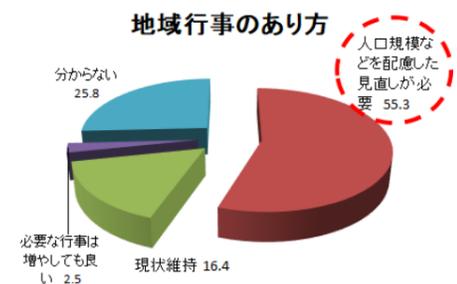
■管理できなくなる農地55%

「既に放棄+管理できなくなる農地の増加」が55%に上り5年前の調査42%を13ポイントも上回りました。農村景観を守る抜本策が必要です。



■地域行事の見直しが必要

人口規模などを配慮した見直しが必要と55%の世帯が答えています。役職の兼務などが負担感を増していることが考えられ改革が求められます。



今のまま推移した10年後のしきしまの姿

集落	現状(令和1年)		将来(令和11年)	
	人口(人)	高齢化率(%)	人口(人)	高齢化率(%)
明賀町	32	56	22	71
太田町	110	50	69	54
大坪町	131	44	99	65
押井町	84	40	62	55
加塩町	87	54	75	65
小田町	17	59	15	57
杉本町	256	31	214	41
榊野町(含万根)	184	41	145	53
東萩平町	85	49	71	55
自治区計	986	42	772	53

※現状/令和1年10月1日現在住民基本台帳、将来/現状×アンケート結果の人口増減率

しきしまの自慢と困りごと

■しきしまの自慢(資源)

- ①豊かな自然環境と山里の美しい景観
- ②温かい人間関係と地域の連帯感
- ③老人憩いの家や泉質の良い温泉の里
- ④しきしまのシンボル貞観杉(国指定天然記念物)
- ⑤「縁結び岩」のあるお須原山(国定公園)
- ⑥棒の手を始め有形、無形の文化財
- ⑦加塩町の庚申堂、押井町の普賢院はじめ由緒ある多数の寺社
- ⑧フジバカマが咲くアサギマダラ(蝶)の飛来地
- ⑨「メグ友会」「旭元気野菜の会」などの農産物出荷組織
- ⑩子どもたちの明るく元気なあいさつ
- ⑪こども園、小学校、旭地区唯一の中学校
- ⑫製造業、サービス業、建設業など多くの雇用の場
- ⑬意欲的な専業農家、チャレンジする集落営農組織
- ⑭空き家活用を中心とする定住対策の先進地
- ⑮志が熱い消防団員の存在
- ⑯小川の水質が改善されつつある

■しきしまの困りごと(課題)

- ①過疎化・高齢化の進行が著しい
- ②ひとり暮らし世帯人の増加
- ③医療機関が遠い
- ④買い物が不便
- ⑤公共交通の活用が不十分
- ⑥未改良の道路が多い
- ⑦農地、山林の荒廃の恐れ
- ⑧鳥獣害被害の拡大
- ⑨若者が定着する職場が少ない
- ⑩昼間人口が少ないことによる犯罪や災害時の不安
- ⑪会議や活動の顔ぶれがいつも同じで、負担感の増大
- ⑫子どもたちが安心して遊べる場所が少ない



美しい田園風景は地域の宝

しきしまが目指す将来像

目指す10年後のしきしまの姿

- ①空き家、農地、山林が有効に活用され、多くのUIターン者とともに豊かで持続可能な暮らしが営まれています。
- ②都市部の企業や市民にも支えられ、手入れされた田畑や山林、清流が日本の田舎を代表する風景になっています。
- ③お年寄りも地域の担い手として元気に働き、子どもたちが自然の中で生き生きと学び、遊んでいます。
- ④歴史や文化財、伝統的な行事が受け継がれ、祭りが盛大に行われています。
- ⑤支え合いを大切に、多少は不便でも安全で安心して暮らせる社会基盤や仕組みの整った地域になっています。

豊かな自然、温かい地域のきずなを守り
人々が生き生きと暮らす山里 しきしま

■基本方針

「しきしま暮らしの作法」を守り

- I 過疎化ストップにチャレンジする
- II しきしまの宝を守る
- III 安心して暮らせる地域をつくる

■活動の目標値

目標指標	現在	5年後	10年後
自治区人口	986人	900人	850人
UIターン世帯	—	10戸	20戸
農地等共同管理体制	2町内会	5町内会	9町内会
たすけあいPJ連携	—	連携試行	本格的連携
こどもパラダイス	—	暫定整備	完成整備
避難誘導マニュアル	暫定整備	拡充・訓練	拡充・訓練
組織・催事改革	—	方針決定	改革実行

令和二年三月

敷島自治区

私たちは、しきしまを豊かな暮らしの場として未来につなぐことを決意し、しきしまを愛する全ての人々を温かく迎え入れます。ここに暮らしの作法十か条を定め、これを守ります。

- 第一条 家、田畑、山林は地域共有の風景と考えよう。
- 第二条 家の周りをきれいに保ち、暮らしを守ろう。
- 第三条 空き家を放置するのはやめよう。
- 第四条 田畑や山林を荒らさず、生業の種を育てよう。
- 第五条 高齢者が生涯現役で暮らせるよう支えあおう。
- 第六条 子どもは地域の宝、よその子も大切に育てよう。
- 第七条 歴史や伝統文化を地域の誇りとして守ろう。
- 第八条 あいさつを励行し、安全安心な地域をつくらう。
- 第九条 自分でできないことは、みんなを助け合おう。
- 第十条 地域の未来のために何ができるか考え行動しよう。

しきしま暮らしの作法

将来像

豊かな自然 温かい地域のきずなを守り 人々が生き生き暮らす山里 しきしま

基本方針

I 過疎化ストップにチャレンジする



II しきしまの宝を守る



III 安心して暮らせる基盤をつくる

分野

1 定住促進

2 環境保全

3 福祉健康

4 次世代育成

5 安全安心

取組み事業

- ①都市農山村交流支援事業 各団体の取組みを、連携、PRなどで支援し、「関係人口」の拡大を図る。 継続
- ②地域人材等ウェルカム事業 空き家、遊休地等を活用し、地域に有用な人材、企業等を誘致する。 新規
- ③住まいの情報バンク事業 「私とお家の明るいミライ宣言」を活用し、バンク登録を推進する。 継続

- ①農地保全管理推進事業 集落営農組織化を推進し、持続的な農地保全の仕組みを作る。 拡充
- ②景観整備保全事業 森づくり、農地保全、花木植栽、美化作業等により農村景観を保全する。 継続
- ③水環境保全事業 エコな暮らし啓発、定期水質検査等により、清流を保全する。 継続

- ①しゃべらまい会開催事業 日中独居を含む一人暮らし高齢者の地域参加、健康づくりを推進する。 継続
- ②健康づくり推進事業 夏祭りの場を活用し、こどもから高齢者までの健康づくりを推進する。 継続
- ③たすけあいプロジェクト推進事業 重点プロジェクトに参画し、住民による支え合いの仕組みを創造する。 新規

- ①すこやか教室事業 親子で交流し、中学生も視野に、すこやかなこどもたちの育成を図る。 継続
- ②集いの場事業 夏祭りの場を活用し、中高生の親の参加も視野に集いの場を運営する。 継続
- ③こどもパラダイス事業 敷島会館および隣接の山を活用し、こどもが学び遊べる場を整備する。 新規

- ①災害に強いまち事業 要支援者避難誘導マニュアルの充実を中心に防災体制の拡充を図る。 拡充
- ②犯罪のないまち事業 防犯カメラ、パトロール、機会を捉えた防犯啓発を推進する。 継続
- ③交通事故のないまち事業 立哨や青パト巡回、高齢者の運転免許証返納の話題化などを推進する。 継続

組織・事業のスリム化が求められており、「産業振興」、「文化・スポーツ」分野の位置づけを変更
 ●「産業振興」に位置づけのあった「特産品づくり」は、農事組合長を中心に構成する(仮)自給家族による農地保全プロジェクトチームが農地保全等の一環として引き継ぎます。
 ●「文化・スポーツ」に位置づけのあった、「伝統文化の継承」、「スポーツ振興」については、棒の手保存会およびスポーツ推進委員を自治会組織に位置づけ、推進を図ります。

プロジェクト

背景・概要・事業イメージ

目標

プロジェクト1
支え合い社会創造プロジェクト

■背景
人口減少・高齢化を正面から受け止め、小数社会で幸せに暮らすため、経営として成り立つ、地域支え合いシステムが必要。地域の課題解決企業「マイパワー」(代表早川足助病名誉院長)との連携が可能である。
 ■概要
「定住促進」「福祉健康」「次世代育成」「安全安心」の横断プロジェクトとして、マイパワーが推進する「たすけあいプロジェクト」をベースに、高齢福祉、教育や子育て、定住魅力づくりを同時に進める。
 ■具体的事業イメージ
①しきしま支え合いシステム推進事業
②子育て環境充実による定住促進事業

5年後の目標
マイパワーの敷島出張所開設が現実味を帯びている。
 ・支援登録者 30名
 ・サービス利用者 100名/年
 ・こどもパラダイス 一部完成
 ・地域電力契約戸数 150戸

プロジェクト2
自給家族による農地保全プロジェクト

■背景
耕作放棄農地の拡大は、美しい農村景観を損ない、定住促進の足かせになるだけでなく、集落消滅の引き金となる。生産者と消費者がつながる「自給家族」方式の横展開で敷島エリアの農地保全は可能である。
 ■概要
「環境保全」の重点事業を、農事組合長と連携して推進する。集落営農組織を再編し、「自給家族」方式を導入。専業農家、JA、企業、特産品出荷者、Iターン者の連携で敷島エリアの全農地を保全する。
 ■具体的事業イメージ
①自給家族による農地保全事業
②福祉健康と連携した特産品出荷事業
③水源の森モデル事業

5年後の目標
全集落の集落営農組織化に目途。自給家族が農地保全モデルになっている。
 ・集落営農組織 5集落
 ・自給家族方式 2団体
 ・特産品出荷者 50人

プロジェクト3
未来への構造改革プロジェクト

■背景
人口減少、小数社会化は、避けて通れず、人口規模に合った地域行事や組織、集落の再編が必要となる。また、移住者の増加により多様な価値観を認め合う「農村型多文化共生社会」のあり方についても研究が必要である。
 ■概要
自治会役員を中心に、有識者、研究者などの助言も得ながら、新たな時代の地域経営について方向性を示す。改革は先送りせず、できることから試行、実践し、先進モデルづくりを目指す。
 ■具体的テーマのイメージ
①地域行事、会議、のあり方
②自治会組織、町内会、農事組合などのあり方
③町内会再編に伴う「むらおさめ」のあり方

5年後の目標
地域行事が重点化・スリム化され、地域再編の方向性が固まっている。
 ・見直し行事・会議 5事業/5年
 ・町内会等あり方 方針決定
 ・過疎地域自立活性化表彰 受賞

ときめきプランの推進に向けて

ポイント1 無理をせずに楽しんで取り組もう
 ポイント2 都市住民や企業、専門家に頼ろう
 ポイント3 PDCA(計画・実行・検証・改善)サイクルを実践しよう

「しきしまとときめきプラン」とは

地域の将来像を皆んなで共有し、効果的にまちづくりを進めるための「しきしまとときめきプラン2015」が、令和1年度をもって5カ年の「行動計画」期間を終えます。社会環境等の変化を踏まえ、新たなステップに向けた計画の見直しを行います。

2020 (R2)年 2024 (R6)年 2029 (R11)年

5年間の行動計画
アクションプログラム

10年間の長期構想
まちづくりビジョン

「私と家族の将来像」アンケートから

10年後の各世帯の「家族構成、家、農地、山林の管理」等について尋ねたアンケートから、現状を放置した場合、極めて厳しいしきしまの将来像が浮かび上がりました。(2019年7月調査)

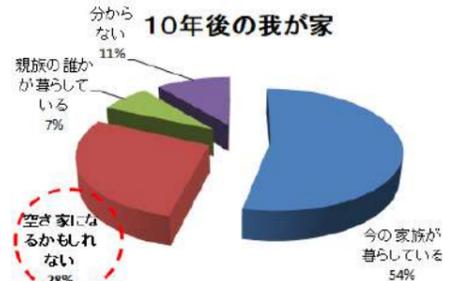
■人口は800人を下回り、7集落が「限界集落」になる恐れ

豊田市に合併して15年、人口は21.4%減少しましたが、今後さらに21.8%の減少が見込まれ、800人を下回る見込みです。また、高齢化率も52%まで上昇し、9集落のうち7集落が「限界集落」(右上の表⑤マーク)のレベルに達します。

※限界集落：人口100人未満、高齢化率50%以上(65歳以上)の集落で、お役や祭りなどの地域行事が困難になり、いずれ消滅に向かうとされる集落

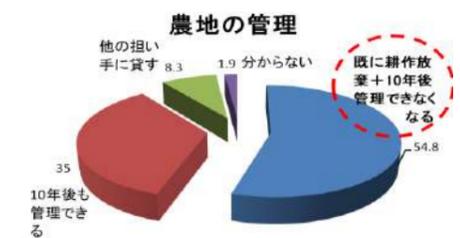
■5戸に1戸が空き家の風景は、まさに消滅していく地域の姿

「空き家になるかもしれない」と28%の世帯が答えています。5年前の調査23%を5ポイント上回りました。また、空き家の活用について、「空き家のまま」が76%にもなります。空き家を放置しない取組みが急務です。



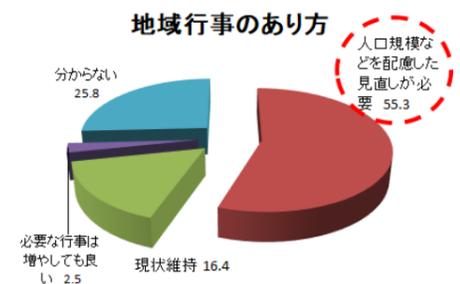
■管理できなくなる農地55%

「既に放棄+管理できなくなる農地の増加」が55%に上り5年前の調査42%を13ポイントも上回りました。農村景観を守る抜本策が必要です。



■地域行事の見直しが必要

人口規模などを配慮した見直しが必要と55%の世帯が答えています。役職の兼務などが負担感を増していることが考えられ改革が求められます。



今のまま推移した10年後のしきしまの姿

集落	現状(令和1年)		将来(令和11年)	
	人口(人)	高齢化率(%)	人口(人)	高齢化率(%)
明賀町	32	56	22	71
太田町	110	50	69	54
大坪町	131	44	99	65
押井町	84	40	62	55
加塩町	87	54	75	65
小田町	17	59	15	57
杉本町	256	31	214	41
榊野町(含万根)	184	41	145	53
東萩平町	85	49	71	55
自治区計	986	42	772	53

※現状/令和1年10月1日現在住民基本台帳、将来/現状×アンケート結果の人口増減率

しきしまの自慢と困りごと

■しきしまの自慢(資源)

- ①豊かな自然環境と山里の美しい景観
- ②温かい人間関係と地域の連帯感
- ③老人憩いの家や泉質の良い温泉の里
- ④しきしまのシンボル貞観杉(国指定天然記念物)
- ⑤「縁結び岩」のあるお須原山(国定公園)
- ⑥棒の手を始め有形、無形の文化財
- ⑦加塩町の庚申堂、押井町の普賢院はじめ由緒ある多数の寺社
- ⑧フジバカマが咲くアサギマダラ(蝶)の飛来地
- ⑨「メグ友会」「旭元気野菜の会」などの農産物出荷組織
- ⑩子どもたちの明るく元気なあいさつ
- ⑪こども園、小学校、旭地区唯一の中学校
- ⑫製造業、サービス業、建設業など多くの雇用の場
- ⑬意欲的な専業農家、チャレンジする集落営農組織
- ⑭空き家活用を中心とする定住対策の先進地
- ⑮志が熱い消防団員の存在
- ⑯小川の水質が改善されつつある

■しきしまの困りごと(課題)

- ①過疎化・高齢化の進行が著しい
- ②ひとり暮らし世帯人の増加
- ③医療機関が遠い
- ④買い物が不便
- ⑤公共交通の活用が不十分
- ⑥未改良の道路が多い
- ⑦農地、山林の荒廃の恐れ
- ⑧鳥獣害被害の拡大
- ⑨若者が定着する職場が少ない
- ⑩昼間人口が少ないことによる犯罪や災害時の不安
- ⑪会議や活動の顔ぶれがいつも同じで、負担感の増大
- ⑫子どもたちが安心して遊べる場所が少ない



美しい田園風景は地域の宝

しきしまが目指す将来像

目指す10年後のしきしまの姿

- ①空き家、農地、山林が有効に活用され、多くのUIターン者とともに豊かで持続可能な暮らしが営まれています。
- ②都市部の企業や市民にも支えられ、手入れされた田畑や山林、清流が日本の田舎を代表する風景になっています。
- ③お年寄りも地域の担い手として元気に働き、子どもたちが自然の中で生き生きと学び、遊んでいます。
- ④歴史や文化財、伝統的な行事が受け継がれ、祭りが盛大に行われています。
- ⑤支え合いを大切にし、多少は不便でも安全で安心して暮らせる社会基盤や仕組みの整った地域になっています。

豊かな自然、温かい地域のきずなを守り
人々が生き生きと暮らす山里 しきしま

■基本方針

「しきしま暮らしの作法」を守り

- I 過疎化ストップにチャレンジする
- II しきしまの宝を守る
- III 安心して暮らせる基盤をつくる

■活動の目標値

目標指標	現在	5年後	10年後
自治区人口	986人	900人	850人
UIターン世帯	—	10戸	20戸
農地共同管理体制	2町内会	5町内会	9町内会
たすけあいPJ連携	—	連携試行	本格的連携
(仮)こどもパラダイス	—	暫定整備	完成整備
避難誘導マニュアル	暫定整備	拡充・訓練	拡充・訓練
組織・催事改革	—	方針決定	改革実行

令和二年三月

穀島自治区

私たちは、しきしまを豊かな暮らしの場として未来につなぐことを決意し、しきしまを愛する全ての人々を温かく迎え入れます。ここに暮らしの作法十か条を定め、これを守ります。

- 第一条 家、田畑、山林は地域共有の風景と考えよう。
- 第二条 家の周りをきれいに保ち、暮らしを豊かにしよう。
- 第三条 空き家を放置するのはいやめよう。
- 第四条 田畑や山林を荒らさず、生業の種を育てよう。
- 第五条 高齢者が生涯現役で暮らせるよう支えあおう。
- 第六条 子どもは地域の宝、よその子も大切に育てよう。
- 第七条 歴史や伝統文化を地域の誇りとして守ろう。
- 第八条 あいさつを励行し、安全安心な地域をつくらう。
- 第九条 自分でできないことは、みんなを助け合おう。
- 第十条 地域の未来のために何ができるか考え行動しよう。

しきしま暮らしの作法

将来像

豊かな自然

温かい地域のきずなを守り人々が生き生き暮らす山里しきしま

基本方針

I 過疎化ストップにチャレンジする



II しきしまの宝を守る



III 安心して暮らせる基盤をつくる

分野

1 定住促進

2 環境保全

3 福祉健康

4 次世代育成

5 安全安心

取組み事業

- ①都市農山村交流支援事業 継続
各団体の取組みを、連携、PRなどで支援し、「関係人口」の拡大を図る。
- ②(仮)地域人材ウェルカム事業 新規
空き家、遊休地等を活用し、地域に有用な人材、企業等を誘致する。
- ③住まいの情報バンク事業 継続
「私とお家の明るいミライ宣言」を活用し、バンク登録を推進する。

- ①農地保全管理推進事業 拡充
集落営農組織化を推進し、持続的な農地保全の仕組みを作る。
- ②景観整備保全事業 継続
森づくり、農地保全、花木植栽、美化作業等により農村景観を保全する。
- ③水環境保全事業 継続
エコな暮らし啓発、定期水質検査等により、清流を保全する。

- ①しゃべらまい会開催事業 継続
日中独居を含む一人暮らし高齢者の地域参加、健康づくりを推進する。
- ②健康づくり推進事業 継続
夏祭りの場を活用し、こどもから高齢者までの健康づくりを推進する。
- ③たすけあいプロジェクト推進事業 新規
重点プロジェクトに参画し、住民による支え合いの仕組みを創造する。

- ①すこやか教室事業 継続
親子で交流し、中学生も視野に、すこやかなこどもたちの育成を図る。
- ②集いの場事業 継続
夏祭りの場を活用し、中高生の親の参加も視野に集いの場を運営する。
- ③(仮)こどもパラダイス事業 新規
敷島会館および隣接の山を活用し、こどもが学び遊べる場を整備する。

- ①災害に強いまち事業 拡充
要支援者避難誘導マニュアルの充実を中心に防災体制の拡充を図る。
- ②犯罪のないまち事業 継続
防犯カメラ、パトロール、機会を捉えた防犯啓発を推進する。
- ③交通事故のないまち事業 継続
立哨や青パト巡回、高齢者の運転免許証返納の話題化などを推進する。

組織・事業のスリム化が求められており、「産業振興」、「文化・スポーツ」分野の位置づけを変更
 ●「産業振興」に位置づけのあった「特産品づくり」は、農事組合長を中心に構成する(仮)自給家族による農地保全プロジェクトチームが農地保全等の一環として引き継ぎます。
 ●「文化・スポーツ」に位置づけのあった、「伝統文化の継承」、「スポーツ振興」については、棒の手保存会およびスポーツ推進委員を自治会組織に位置づけ、推進を図ります。

プロジェクト

背景・概要・事業イメージ

目標

プロジェクト1
(仮)支え合い社会創造プロジェクト

■背景
人口減少・高齢化を正面から受け止め、小数社会で幸せに暮らすため、経営として成り立つ、地域支え合いシステムが必要。地域の課題解決企業「マイパワー」(代表早川元足助病院長)との連携が可能である。
 ■概要
「定住促進」「福祉健康」「次世代育成」「安全安心」の横断プロジェクトとして、マイパワーが推進する「たすけあいプロジェクト」をベースに、高齢福祉、教育や子育て、定住魅力づくりを同時に進める。
 ■具体的事業イメージ
①たすけあいプロジェクト推進事業
②子育て環境充実による定住促進事業

5年後の目標
マイパワーの敷島出張所開設が現実味を帯びている。
 ・支援登録者 30名
 ・サービス利用者 100名/年
 ・こどもパラダイス 一部完成
 ・地域電力契約戸数 150戸

プロジェクト2
(仮)自給家族による農地保全プロジェクト

■背景
耕作放棄農地の拡大は、美しい農村景観を損ない、定住促進の足かせになるだけでなく、集落消滅の引き金となる。生産者と消費者がつながる「自給家族」方式の横展開で敷島エリアの農地保全は可能である。
 ■概要
「環境保全」の重点事業を、農事組合長と連携して推進する。集落営農組織を再編し、「自給家族」方式を導入。専業農家、JA、企業、特産品出荷者、Iターン者の連携で敷島エリアの全農地を保全する。
 ■具体的事業イメージ
①自給家族による農地保全事業
②福祉健康と連携した特産品出荷事業
③水源の森モデル事業

5年後の目標
全集落の集落営農組織化に目途。自給家族が農地保全モデルになっている。
 ・集落営農組織 5集落
 ・自給家族方式 2団体
 ・側産品出荷者 50人

プロジェクト3
(仮)未来への構造改革プロジェクト

■背景
人口減少、小数社会化は、避けて通れず、人口規模に合った地域行事や組織、集落の再編が必要となる。また、移住者の増加により多様な価値観を認め合う「農村型多文化共生社会」のあり方についても研究が必要である。
 ■概要
自治会役員を中心に、有識者、研究者などの助言も得ながら、新たな時代の地域経営について方向性を示す。改革は先送りせず、できることから試行、実践し、先進モデルづくりを目指す。
 ■具体的テーマのイメージ
①地域行事、会議、のあり方
②自治会組織、町内会、農事組合などのあり方
③町内会再編に伴う「むらおさめ」のあり方

5年後の目標
地域行事が重点化・スリム化され、地域再編の方向性が固まっている。
 ・見直し行事・会議 5事業/5年
 ・町内会等あり方 方針決定
 ・過疎地域自立活性化表彰 受賞

ときめきプランの推進に向けて

ポイント1 無理をせずに楽しんで取り組もう
 ポイント2 都市住民や企業、専門家に頼ろう
 ポイント3 PDCA(計画・実行・検証・改善)サイクルを実践しよう